



編集発行者  
千葉大学医学部  
るのほな同窓会報編集部  
〒260-8670 千葉市中央区交鼻1-8-1  
千葉大学医学部内  
るのほな同窓会  
電話 (043) 202-3750  
FAX (043) 202-3753  
e-mail : idoso2@med.m.chiba-u.ac.jp  
HP : http://www.inohana.jp/

千葉大学医学部同窓会報 第137号 題字 故 鈴木五郎 (大11卒 元るのほな同窓会長)

## 平成16年度 るのほな同窓会総会開催

平成16年度るのほな同窓会総会が、平成16年6月19日(土)午後3時より、京成ホテル・ミラマールにおいて千葉県るのほな会支部の担当により開催された。



大浜博利理事の司会により、大藤正雄副会長から開会の辞が述べられた。会議に先立って、物故者69名の冥福を祈り、黙祷を捧げた。渡辺武会長挨拶に続いて、各担当理事から説明があり、審議承認された。るのほな同窓会会則の大巾な修正があり、総務会の設置や医学部在学生の会員化などの改定が決定された。(詳細は2面に掲載。)

### 総会風景

引き続き、平成16年度るのほな同窓会賞の表彰式が行われた(関連記事は8〜10面に掲載)。

### 総会によせて

千葉大学るのほな同窓会会長

渡辺 武

イラク戦争の終結がアメリカ大統領から宣言されてからすでに1年以上、民主政府が樹立されても一向に解決されず、文明の衝突から世界的なテロへと恐ろしい時代となってきました。ご存知のようにバブルにうかれ経済大国を誇った日本

では、今年の税収45兆円に對して支出は64兆円予算、加えて国債の利払い17兆円が追加されます。すでに国の借金はGDPの1.5倍の700兆円にも達しています。国としてはもう面倒みきれない、グローバル化の時代とばかり学問の府

も国立とは名ばかりで補助金は出来るだけ節約し、創意工夫で自分のことは自分で守るよう独立法人化へと叱咤激励しております。一方、卒業教育も2年間のプライマリ・ケア実習を義務づけて、いわゆる医局の存在は別次元のものと激変しました。

同窓会としては単なる親睦会ではなく母校の発展に貢献するため一段とその方向を定め、具体的な行動が求められております。そこで会則を一部改定し、総会で承認を得ました。

会員は4種とし正会員、学生会員、特別会員、名誉会員としました。

また従来同窓会事業は、3会務(庶務、会計、事業)により行われてきましたが、事業の拡大進展のためには各種打ち合わせ事項の相互の連絡調整の委員会が必須となりました。そこで生まれたのが総務会です。

情報化の時代です。IT革命にマッチしたシステムの構築も焦眉の急を要します。広く会員の積極的なご意見、アイデア、ご批判などの窓口も広げてゆきたいと思えます。今後とも暖かいご支援とご理解を御願いたします。

## 電子カルテ講座開催される

るのほな同窓会員によるるのほな同窓会員のためのIT化事業というところで、7月10日(土)虎ノ門パストラルにおいて、電子カルテ講座が開催された。会員相互のITによる迅速な交流と厚生労働省が求めている医療機関のIT化に呼応する事業として、同窓会本部(担当、鈴木信夫理事)と東京るのほな会(担当、済陽高穂理事)との共催で行われた。前号で予告された企画であったが、50名程の参加者により、3名の講師の講演と企業による宣伝も含めて、熱心な討議が行われた(講演の詳細と参加者の感想は20面に掲載)。今後もIT対応能力の様々なレベルの会員が、それぞれの立場から、種々の企画が提案され、実行される事が望まれた。

## るのほな同窓会賞受賞候補者募集要項

第10回(二〇〇五年度)るのほな同窓会賞の受賞候補者を左記により募集致します。

### 一、受賞対象者

①学術賞 本会員で、医学研究あるいは医療活動の顕著な業績により、学術的あるいは社会的に高い貢献をした個人またはグループ。特に学外の教育研究診療機関に居られる方と、学内では学位取得直後の層からの応募を歓迎いたします。

②功労賞 医学および文化の各領域において、千葉大学医学部および千葉大学るのほな同窓会に多大の貢献をした者。

### 二、表彰

①学術賞 (五件以内) 楯および副賞(総額二百五十万円程度)を贈呈します。

②功労賞 (三件以内) 楯および薄謝を贈呈します。

### 三、応募方法

所定の申請用紙により、二〇〇四年12月1日から二〇〇五年1月31日までの間に申請して下さい。

### 四、受賞者の決定

選考委員、常任理事会の議を経て、会長が行います。

審査結果は二〇〇五年5月中旬までに各申請者に通知すると共に、るのほな同窓会報に掲載します。

### 五、問い合わせおよび申請用紙請求先

千葉大学医学部内 るのほな同窓会事務局

るのほな同窓会賞規定については6面をご覧下さい。

## 紙面紹介

|                  |        |
|------------------|--------|
| 16年度るのほな同窓会総会議事録 | 2面     |
| るのほな同窓会会則(新旧対照表) | 3〜6面   |
| 就任の挨拶            | 7〜8面   |
| 第9回るのほな同窓会賞受賞者挨拶 | 8〜10面  |
| 同窓会員著書の紹介        | 10〜12面 |
| 附属病院ニュース         | 12面    |
| 人事異動             | 12面    |
| クラス会             | 13〜15面 |
| 各地るのほな会だより       | 15〜17面 |
| 16年度 医学部亥鼻祭      | 18面    |
| ゲッティンゲン便り        | 18面    |
| 柏の葉診療所紹介         | 19面    |
| 第1回総務会議事録        | 19面    |
| 電子カルテ講座          | 20〜21面 |
| 横浜労災病院紹介         | 22面    |
| インタビュー           | 22〜23面 |

平成16年度 あのはな同窓会総会議事録

日時 平成16年6月19日(土) 午後3時

場所 千葉 京成ホテル・ミラマーレ 大浜博利理事の司会、大藤正雄副会長の辞により開会となった。物故者に黙祷を捧げた後、渡辺武会長よりご挨拶があり、大学法人化、卒後研修必修化等を踏まえ、会則改定案下程に至った経緯について説明がなされた。

会務報告 鈴木信夫理事より、昨年度の会務報告がなされた。庶務関係として、各会議、各支部との交流について説明がなされた。会計関係として決算の概要、事業関係として学外研究助成、同窓会賞、同窓会報、セミナー事業の概要について説明がなされた。

(1) 報告事項 一、学外研究助成選考について 鈴木理事より、委員会による選考経過と各受賞者の推薦理由の説明があった。

二、同窓会賞選考について 同理事より、委員会による選考経過と功労賞、学術賞の各受賞者の推薦理由の説明があった。

三、同窓会会報関係 同理事より、会報の編集方針について報告があった。四、名簿発行について 瀧口正樹理事より、来年度発行予定の会員名簿について、編纂の進捗状況について報告があった。

(2) 議案 一、平成15年度決算案 白澤浩理事より、決算内容についての説明と、田中光、秋葉哲生両監事より、監査報告があり、決算案が承認された。

二、平成16年度事業計画について 瀧口理事より、会報発行・編集部設備整備、あのはな同窓会賞・助成授与、支部支援・支部会報発行助成、教育・渉外助成、同窓会館補修支援、名簿発行作業、亥鼻分館助成、同窓会活性化施策(IT化事業、講演会開催等)について説明があり、承認された。

三、平成16年度予算案 白澤理事より、新規事業調査費、会報編集部設備整備費等、前年度との相違点について説明があり、予算案が承認された。

四、名譽会員の推薦について 瀧口理事より、平成16年3月に退官された伊藤晴夫、里村洋一、谷口克教授の名譽会員への推挙について説明があり、承認された。

五、会則の改定について 鈴木理事より、資料に基づき会則改定案の説明があり、承認された。

六、名譽会長推薦について 渡辺会長より、長澤前会長の名誉会長推挙の提案がなされ、承認された。

懇親会 栗原伸夫理事の司会、富田裕副会長の辞により、開会となった。渡辺会長のご挨拶に始まり、楽しい歓談の時を過ごした。学外研究助成受賞者のご挨拶のほか、多くの出席者からご意見、近況なども伺い、有意義な会であった。大浜理事の辞により閉会となった。

特別講演 渡辺会長の司会のもと、福田康一郎研究院長・医学部長から、法人化を迎えた医学部の現状と展望についてお話を伺った。また、堀江寛研究院・医学部事務長より、医学部設立130周年記念事業に対する取り組み状況が解説された。

教育講演 渡辺会長の司会のもと、西野卓教授(麻醉科学)から、医学部附属病院における医療事故・医療紛争防止の試みについてお話を伺った。

あのはな同窓会賞表彰式 鈴木理事の司会のもと、功労賞、学術賞の表彰式が行われた。渡辺会長よりの表彰盾の授与に続き、各受賞者のご挨拶を頂いた。

四金会開催のお知らせ 平成16年11月24日(水) 午後5時30分より 千葉スカイウィンドウズ 東天紅 (千葉駅前そごう西隣りセンシティタワー22階) 同窓会員の方々の出席を お願い致します。 会費は3,000円です。 連絡先 千葉大学あのはな同窓会 電話 043-202-3750

平成15年度決算報告書

Table with 5 columns: 収入の部, 支出の部, 款項目, 予算額(円), 決算額(円), 対予算額(円). Includes sub-totals for 収入合計 and 支出合計.

平成16年度予算

Table with 5 columns: 収入の部, 支出の部, 款項目, 平成16年度予算額(円), 平成15年度決算額(円), 対前年度決算額(円). Includes sub-totals for 収入合計 and 支出合計.

千葉大学ゐのほな同窓会会則（新旧対照表）

| 旧   | 新  |
|---|--|
| <p>第1章 名 称</p>  | <p>第1章 名 称</p>   |
| <p>第1条 本会は千葉大学ゐのほな同窓会と称する。</p>  | <p>第1条 本会は千葉大学ゐのほな同窓会と称する。</p>   |
| <p>第2章 事 務 所</p>  | <p>第2章 本部事務所</p>   |
| <p>第2条 本会の事務所は千葉大学医学部内におき、専任の事務員をおく。</p>  | <p>第2条 <u>本会は本部事務所を千葉大学医学部内におき会務を行う。本部には専任の事務員をおく。</u></p>   |
| <p>第3章 目 的</p>  | <p>第3章 目 的</p>   |
| <p>第3条 本会は千葉大学医学部と緊密な関連を保ちその発展に貢献するとともに、会員相互の親睦を図り、あわせて医道の昂揚に努めることを目的とする。</p>   | <p>第3条 本会は千葉大学医学部・<u>大学院医学研究院および医学部附属病院</u>と緊密な関連を保ちその発展に貢献するとともに、会員相互の親睦を図り、あわせて医道の昂揚に努めることを目的とする。</p>  |
| <p>第4章 組 織</p>  | <p>第4章 会 員</p>   |
| <p>第4条 <u>本会の会員は千葉大学医学部ならびにその前身である学校の卒業生および千葉大学医学部において教育、研究、診療に従事中または従事したものよりなる。</u></p>  | <p>第4条 本会の会員は次の4種とする。<br/> <u>1. 正会員 2. 学生会員 3. 特別会員 4. 名誉会員</u><br/> <u>正会員は千葉大学医学部・医学研究院・前身学校の卒業生および千葉大学医学部・医学研究院・附属病院において教育、研究、診療に従事中または従事した者、学生会員は千葉大学医学部に在学中の者、特別会員は常任理事会で特に推薦された者、名誉会員は本会对し功労顕著で総会において推薦された者である。</u></p> |
| <p>第5条 本会の会員を分けて次の4種とする。<br/> 1. <u>正会員（甲）千葉大学医学部ならびにその前身学校を卒業したもの</u><br/> 2. <u>正会員（乙）1以外のもので以下のイ）またはロ）に該当するもの</u><br/> イ）<u>大学院生、研究生、委託研究生、医員、研修医およびこれらを終了したもの</u><br/> ロ）<u>千葉大学医学部ならびに前身学校の教授を除く教員</u><br/> 3. <u>特別会員 千葉大学医学部ならびに前身学校の教授のうち1および2のイ）以外のもの</u><br/> 4. <u>名誉会員 本会对し功労顕著で総会において推薦されたもの</u></p> | <p>第5条 <u>会員は別途に定める会費を納入するものとする。但し名誉会員は会費を要しない。また正会員として50年を経過した会員の会費は免除する。会員は総会議事に参加する。また本会の各種事業に参画し、本会の事業、会務等につき随時報告を受けるものとする。</u></p>  |
| <p>第5章 支 部</p>  | <p>第5章 支 部</p>   |
| <p>第6条 各地方の会員は地方支部を組織し、<u>別に本学に在籍中の会員は学内支部を組織することが出来る。</u></p>  | <p>第6条 各地方の会員は地方支部を組織し、<u>本会の事業に参画することができる。支部を結成したときは代表者を定め支部規則を付し本会に届出るものとする。</u></p>   |
| <p>第7条 支部は本会の目的に沿い、本会と緊密な連絡をとり、<u>会員相互の親睦を図ることを目的とする。</u></p>   | <p>第7条 各支部は<u>本会の理事及び評議員を推薦することができる。</u></p>   |
| <p>第8条 支部を結成したときは<u>支部規則を付して本会に報告する。</u></p>  | <p>第8条 <u>削 除</u></p>  |
| <p>第9条 1. <u>支部には支部理事、本会評議員若干名をおく</u> 2. <u>理事代行をおくことが出来る</u> 3. <u>理事および評議員は支部の推薦による</u> 4. <u>支部理事の任期は本会役員の任期に準ずる</u></p>   | <p>第9条 <u>削 除</u></p>  |
| <p>第6章 役 員 等</p>  | <p>第6章 役 員</p>   |
| <p>第10条 本会に次の役員をおく。<br/> 会長1名・副会長3名・理事120名・常任理事30名以内・<u>会計監事2名・評議員130名以内</u></p>  | <p>第8条 本会に次の役員をおく。<br/> 会長1名・副会長3名・<u>参与3名</u>・理事120名・常任理事30名以内・評議員130名以内・<u>監事2名</u></p>  |
| <p>第11条 会長、副会長は総会においてこれを選出する。</p>   | <p>第9条 会長、副会長、<u>参与</u>は総会において選出する。</p>  |
| <p>第12条 会長は本会を代表して<u>会務を統理する。</u></p>   | <p>第10条 会長は本会を代表し、<u>総会、常任理事会の決定、会則に従い会務を総理する。</u></p>   |
| <p>第11条 会長、副会長は総会においてこれを選出する。</p>   | <p>第11条 副会長、<u>参与</u>は会長を補佐し<u>会務を分担する。</u>会長事故あるときは副会長がその職務を代行する。</p>   |
| <p>第12条 会長は本会を代表して<u>会務を統理する。</u></p>   | <p>第12条 <u>理事は各支部および医学部・医学研究院・医学部附属病院の会員の推薦に基づき総会の承認により決定する。</u><br/> <u>理事は互選により常任理事を選出し、常任理事とともに会務に参画する。</u></p>   |

第13条 副会長は会長を補佐し、会長に事故があるときはその職務を代行する。

第14条 理事および評議員は総会の承認を経なければならない。

第15条 理事は理事会において常任理事を互選する。

第16条 常任理事は会長を補佐して本会の会務を掌理する。

第17条 理事は常任理事と協力して会務に従事する。

第18条 会計監事は総会において選出し本会の資産および会計に関する監査を行う。

第19条 評議員は会長の諮問に応じて重要事項を審議する。

第20条 評議員は次の各号の一つに該当するものをこれにあてる。

1. 正会員（甲）で現に本学部に在籍中のものから選出されたもの

2. 支部より推薦されたもの

3. 各卒業年次クラスより推薦されたもの

4. 総会において推薦されたもの

第21条 役員の任期は2年とする。但し再任を妨げない。

第22条 役員の任期終了後であっても後任者が就任するまではその職務を行うものとする。

第23条 本会に名誉会長をおくことができる。名誉会長は本会会長として特に功績顕著であったものを総会において推薦する。

第24条 本会に参与および顧問若干名をおくことができ会長がこれを推薦する。

1. 参与および顧問は会長の諮問に応ずる。

#### 第7章 会 議

第25条 会議を分けて次の五種とする。

1. 通常総会 2. 臨時総会 3. 評議員会 4. 理事会  
5. 常任理事会

第26条 会議は会長が召集してその議長となる。

第27条 各会議の議事は出席者の過半数をもってこれを決する。但し可否同数のときは議長が決する。

第28条 通常総会は毎年1回これを開き、次の事項を審議する。

1. 会務報告  
2. 予算および収支決算  
3. 理事会または常任理事会において必要と認めた事項

第29条 臨時総会は理事会または常任理事会において必要と認められたほか、総会員5分の1以上より会議の目的である事項を示して要求のあった場合にこれを開く。

第30条 評議員会は理事会において必要と認められたほか、評議員10名以上の要求によって臨時にこれを開くことができる。

第31条 常任理事会、理事会は随時これを開き、過半数の出席をもって会の成立とする。但し委任状をもって出席に代えることができる。常任理事会は会長が緊急の必要を認めた事項については、総会に代わり議決を行うことができる。なお、この議決事項については速やかに会報に掲載するとともに次の総会で事後の承認を得るものとする。

第13条 常任理事は、会長・副会長・参与と共に常任理事会を組織し、別途に定める会の重要事項を審議し決定する。

第14条 監事は総会において選出し、本会の財務運営につき監査を行う。

第15条 評議員は第12条前段に規定する各母体、各卒業年次クラス、および総会の推薦に基づき総会の承認により選出する。評議員は会の重要事項について会長の諮問に応じる。

第18条 削除

第19条 削除

第20条 削除

第16条 役員の任期は2年とする。但し再任を妨げない。

第17条 役員は任期終了後であっても後任者が就任するまでその職務を行うものとする。

第18条 本会に名誉会長をおくことができる。名誉会長は本会会長として特に功績顕著であったものを総会において推薦する。

第19条 本会に顧問若干名をおくことができる。

会長がこれを推薦する。

顧問は会長の諮問に応ずる

#### 第7章 会 議

第20条 会議を分けて次の五種とする。

1. 通常総会 2. 臨時総会 3. 評議員会 4. 理事会  
5. 常任理事会

第21条 会議は会長が召集し、議長は出席者より互選する。

第22条 各会議の議事は出席者の過半数をもってこれを決する。但し学生会員は議決に参加できない（註1参照）。なお、可否同数のときは議長が決する。

第23条 通常総会は毎年1回これを開き、次の事項を審議する。

1. 会務報告  
2. 予算および収支決算  
3. 任期満了に伴う役員の改選及び欠員の補充  
4. 規約の制定  
5. その他常任理事会において必要と認めた事項

第24条 臨時総会は理事会または常任理事会において必要と認められたほか、総会員5分の1以上より会議の目的である事項を示して要求のあった場合にこれを開く。

第25条 評議員会は理事会において必要と認められたほか、評議員10名以上の要求によって臨時にこれを開くことができる。

評議員会は、その決議により、会の臨時事業を發議提案することができる。

第26条 常任理事会は原則として年三回開催し、過半数の出席をもって会の成立とする。但し委任状をもって出席に代えることができる。

常任理事会は、会務全般につき随時報告を求め、第23条に規定する事項の外、会の重要事項について審議し決定する。この議決事項については速やかに会報に掲載する。

第27条 理事会は随時これを開き、総会と合同にて開催することができる。

第 8 章 資 産 お よ び 会 計

第32条 本会の資産は次のとおりとする。

- 1. 基本財産
  - (イ) 旧「あのはな会」より継承した別紙目録記載の財産 (什器・書を除く)
  - (ロ) 基本財産としての寄付金
- 2. 普通財産
  - (イ) 資金より生ずる利子
  - (ロ) 会費
  - (ハ) 会員の入会金
  - (ニ) 前号(ロ)以外の寄付金
  - (ホ) 歳計剰余金
  - (ヘ) その他の収入

第33条 本会の財産管理の方法は総会において定める。但し基本財産としての寄付金などは郵便局または銀行、金銭信託銀行に預け入れる。

第34条 基本財産の元本はこれを消費することができない。但し、評議員ならびに総会の決議を経てその一部を普通財産に編入することは差支えない。

第35条 本会の経費は普通財産をもってこれを支弁する。経費に余剰を生じたときは翌年度経費に繰越す。但し、理事会の決議を経てその一部もしくはその全部を基本財産に編入することができる。

第36条 特定の目的をもって募集した寄付金は特別会計とする。

第37条 本会の予算は総会の決議を経てこれを定め、決算は年度終了後2ヶ月以内に常任理事会の承認を経ることが必要である。

第38条 本会の会計は入会金、会費および寄付金をもってこれにあてる。

- 1. 名誉会員および特別会員よりは会費を徴収しない。
- 2. 正会員の入会金および会費は別表のとおりとする。会費は毎年4月に納付する。(当該年度に卒業するものは卒業時に納付する)
- 3. 入会金および会費は常任理事会の議決によって変更し、総会において承認を得ることとする。
- 4. 卒業後50年を経過した会員の会費は免除する。

第39条 本会の会計年度は4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

第 9 章 会 務

第40条 本会は第3条の目的を遂行するために次の各部において会務を処理し、各部に会務担当理事および委員若干名を配置する。委員は会長これを会員より指名し、会務担当を委嘱する。

- 1. 庶務部
 次の事項を処理する
  - (イ) 本会の会議ならびに議案議事の整理その他の記録一般に関する事項
  - (ロ) 会員の親睦に関する事項 (註参照)
  - (ハ) 各支部との連絡調整に関する事項 (註参照)
  - (ニ) その他、他部に属さない一般会務に関する事項
- 2. 会計部
 次の事項を処理する。
  - (イ) 入会金、会費の徴収および寄付金に関する事項
  - (ロ) 予算、決算に関する事項
  - (ハ) 財産の管理および利殖に関する事項
  - (ニ) 現金および物品出納保管に関する事項
  - (ホ) その他一般会計に関する事項

第 8 章 会 務

第28条 本会の会務は総務会がこれを統轄する。

総務会は、会長、副会長、参与、会務担当責任者及び会長の指名する若干名を以って構成する。

総務会は一般会務の総合調整を図り、新規事業の企画の調整を行い、常任理事会に議案を提出する。なお、新規事業その他特別な案件については総務会の議を経て別途に委員会を設け企画・立案することができる。

一般会務は次の3部に分け、会長が理事及び会員より指名する各部の責任者(会務担当責任者)及び委員に、これらの会務担当を委嘱する。

- 1. 庶務部
 次の事項を処理する
  - (イ) 本会の会議ならびに議案議事の整理その他の記録一般に関する事項
  - (ロ) その他、他部に属さない一般会務に関する事項
  - (ハ) 会員の親睦と各支部との連絡調整に関する事項 (註2参照)
- 2. 会計部
 次の事項を処理する。
  - (イ) 入会金、会費の徴収および寄付金に関する事項
  - (ロ) 予算、決算に関する事項
  - (ハ) 財産の管理および利殖に関する事項
  - (ニ) 現金および物品出納保管に関する事項
  - (ホ) その他一般会計に関する事項
- 3. 事業部
 次の事項を処理する。
  - (イ) 会員名簿および千葉大学あのはな同窓会会報の発行
  - (ロ) 学事奨励に関する事項
  - (ハ) 情報連絡、研究会開催等本会の目的を達成するために適当な事業
  - (ニ) 就職相談に関する事項

第 9 章 財 務

第29条 本会の資産は次のとおりとする。

- 1. 基本財産
  - (イ) 旧「あのはな会」より継承した別紙目録記載の財産 (什器・書を除く)
  - (ロ) 基本財産としての積立金(基金)
- 2. 普通財産
  - (イ) 基金より生ずる利子
  - (ロ) 会費
  - (ハ) 会員の入会金
  - (ニ) 寄付金
  - (ホ) 歳計剰余金
  - (ヘ) その他の収入

第30条 本会の財産管理の方法は総会において定めるほか、常任理事会は総会の趣旨に従い別途に会計規則を定めることができる。但し基金その他の重要財産は郵便局、銀行、または金銭信託銀行に預け入れる。

第31条 基本財産の元本はこれを消費することができない。但し、評議員ならびに総会の決議を経てその一部を普通財産に編入することは差支えない。

3. 事業部

次の事項を処理する。

- (イ) 会員名簿および千葉大学あのはな同窓会会報の発行
- (ロ) 就職相談に関する事項
- (ハ) 学事奨励に関する事項
- (ニ) 情報連絡、研究会開催等本会の目的を達成するために適当な事業

第41条 本会は評議員の決議によって臨時事業を行うことができる。

第10章 附 則

第42条 本会会則は常任理事会の承認を経た後、総会において出席者の3分の2以上の同意を得なければ変更することができない。前項の場合書面または他の会員に委任して票決権を行使したものは出席者とみなす。

第43条 本会会則は昭和26年12月1日より施行する。(昭和30年11月、33年11月、37年7月、40年11月、43年7月、50年6月、56年6月、平成5年6月、6年6月、8年6月、11年6月、12年6月、15年6月会則一部改正)

第32条 本会の経費は普通財産をもってこれを支弁する。経費に余剰を生じたときは翌年度経費に繰越す。但し、常任理事会の決議を経てその一部もしくはその全部を基本財産に編入することができる。

第33条 特定の目的をもって募集した寄付金は特別会計とする。

第34条 本会の予算は総会の決議を経てこれを定め、決算は年度終了後2ヶ月以内に常任理事会の承認を経ることが必要である。

第35条 会員の入会金および会費は別表のとおりとする(註3参照)。会費は毎年4月に納付する。

入会金および会費は常任理事会の議決によって変更することができる。但し総会において承認を得ることとする。

第36条 本会の会計年度は4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

第41条 削除

第10章 附 則

第37条 本会会則は常任理事会の承認を経た後、総会において出席者の3分の2以上の同意を得なければ変更することができない。前項の場合書面または他の会員に委任して票決権を行使したものは出席者とみなす。

第38条 本会会則は昭和26年12月1日より施行する。(昭和30年11月、33年11月、37年7月、40年11月、43年7月、50年6月、56年6月、平成5年6月、6年6月、8年6月、11年6月、12年6月、15年6月、16年6月会則一部改定)

別 表

| 会 員     | 会 費       | 入 会 金   |
|---------|-----------|---------|
| 正 会 員   | 年 5,000 円 | 5,000 円 |
| 学 生 会 員 | 年 1,000 円 |         |

註1 総会において学生会員は議長の許可を得て発言することができる。

註2 本会各支部と大学との緊密な連携を保ち、また、会員相互の親睦をはかるため、原則として年3回の親睦会(四金会)を開催する。

註3 現在在学中の学生会員の入会金納入については別途に経過措置を講ずる。

同 窓 会 賞 規 定

(目的と対象)

第1条 本規定は本会会員(甲および乙)の学術および文化諸分野における顕著な功績に対し、これを顕彰することを目的とする。受賞対象となる活動は国の内外および地域を問わない。

(顕彰の種別)

第2条 顕彰の種別は学術賞および功労賞とする。

1、学術賞は、医学あるいは医療活動の顕著な業績により、学術的あるいは社会的に高い貢献をした会員(個人あるいはグループ)に授与する。

2、功労賞は、医学あるいは広く文化の各領域において千葉大学および千葉大学あのはな同窓会に多大の貢献をしたものに授与する。

功労賞の区分は以下の四種とする。国際賞

国際交流および海外医療の向上に尽くしたものの教育・文化賞

教育、芸術およびスポーツなどの領域において功績顕著なもの医療・福祉・行政賞

医療・福祉・行政の分野において優れた事績のあるもの社会功労賞

自己の危険を顧みず人命救助したものの、公益のため私財を寄付するなど功績顕著なもの

(同窓会賞選考委員会)

第3条 本会に同窓会賞選考委員会を置く。

同窓会賞選考委員会は、会長の諮問に応じ、あのはな同窓会賞の候補の選考に関する事項を調査審議する。

委員会は応募者の中より学術賞5件以内・功労賞3件以内の受賞候補者を選考する。

(選考委員)

第4条 選考委員会の委員は、あのはな同窓会常任理事会が6ないし8名の委員を推薦し、あのはな同窓会長が委嘱する。

委員の任期は、2年とする。委員の再任は妨げない。ただし連続2期までとする。欠員が生じた場合、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。委員の互選により委員長を置く。

(組織および運営の細目)

第5条 前条までに定めるものの他、組織および運営の細目については常任理事会の承認を得て選考委員会が定める。

(申請応募の原則)

第6条 同窓会賞受賞希望者は、同窓会賞募集要項に基づき、所定の申請書に必要事項を記載し応募するものとする。募集要項は、あのはな同窓会報に掲載する。

申請は白薦・他薦を問わない。

(受賞者の決定)

第7条 受賞者の決定は選考委員会、常任理事会の議を経て会長が行う。

(賞状および副賞)

第8条 受賞者には本会より楯および副賞を贈呈し、受賞対象となった業績、氏名をあのはな同窓会総会およびあのはな同窓会報に公表する。

(記念講演)

第9条 受賞者はあのはな同窓会総会にて記念講演を行う。

付 則

本規定は、平成9年11月26日から施行する。

平成7年6月24日制定のあのはな同窓会賞選考規程および平成9年2月26日制定のあのはな同窓会顕彰規定(功労賞)は廃止する。

# 教授就任挨拶

医学部附属病院企画情報部

高林 克己(昭50)



千葉大学医学部附属病院の医療情報部は全国国立大学医療情報部の魁として、里村洋一先生のもと昭和56年に発足し、その後里村先生が初代教授に就任されました。この4月に医療情報部は企画情報部となり、5月から私が里村教授を引き継ぐことになりました。以前から先駆的な医療情報部の中で病院情報システム、電子カルテの開発に携わってきましたが、今後は独法化、経営重視の中で、医療情報だけでなく病院の経営・企画も担当することになります。まことに重責で身の引き締まる思いです。長年勤めてきた臨床現場から遊離することなく、かつ国立大学病院の理念と責務を忘れずに、さまざまな視点から眺めて改革を進めたいと思います。国立大学病院時

代の弊害を排除して活性度の高い病院として今後さらに発展するように、また本院がもっている私と私が確信している、より高い潜在能力を引き出せるように、医療情報を駆使してさまざまな企画を立てる所存です。医療情報の電子化により、診療録が施設間を越えて繋がるのは時間の問題であり、またAIの導入により診療支援が現実に行われる時代となりました。このため以前には考えられなかった新たな医療のパラダイム、かつての抗生物質や画像診断の登場によって起ったような変革が、今この医療情報の世界から湧出しようとしています。その発展に寄与するべく、今まで基礎研究、診療と臨床研究、卒前卒後教育、そして在宅・地域医療の経験など、さまざまな職場で積み重ねてきた知識と経験を生かして全力投入する所存です。

医療情報の電子化と共有化はこれからの千葉県全体医療を構築するためには

欠かせません。情報化社会の現代においては、技術力のみを高めて患者が集まるのを待っているのではなく、自ら情報を発信し、しっかりした地域、或いは広域医療連携の上に立って計画的な運用を行なうことで、初めて高度先進医療に特化した病院の基礎が出来上がると考えています。このために本院はITを利用した情

報共有網を構築し、千葉県全体の医療施設があたかも一つの病院のように有機的に動く環境の中で、イニシアチブを取っていかねればなりません。このように千葉大学病院をより開かれた医療施設とするべく、邁進してまいります。どうぞ皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。

## 真菌医学研究センター 病原真菌研究部門・真菌感染分野

亀井 克彦(昭56)



平成15年4月1日付けで千葉大学真菌医学研究センター病原真菌研究部門真菌感染分野教授を拝命いたしました。真菌医学研究センターと聞いてもご存じない先生方も多いかと存じますが、当センターは昭和21年に千葉医科大学附属腐敗研究所として発足し、以後さまざまな組織改革を経つつ、感染症と病原微生物の研究を行って来た歴史ある研究施設です。今回、このよう

な千葉大の歴史の一翼を担う施設の教授として着任したことを大変光栄に存じております。

私は昭和56年に千葉大学医学部を卒業し、都立府中病院内科系研修医一期生として研修を始めました。この時、鈴木光先生(昭36)と出会い、ご指導いただいたことが、私が呼吸器内科を専門とするようになった理由の全てといっても過言ではありません。以後、都立広尾病院を経て、都立府中病院、公立昭和病院などで呼吸器内科医として勤務し、昭和64年から呼吸器内科助手として、母校での診療・研究に従事するようになり

ました。この時に当時の真核微生物研究センター(現在の真菌医学研究センター)で宮治誠名誉教授の教室で研究をさせていただいたことが、この領域で仕事を始める契機となりました。その後スタンフォード大学感染症科でヒストプラズマ症の原因因子の研究に従事し、帰国後は東芝中央病院(現 東芝病院)に呼吸器内科医として勤務しておりましたが、縁あって平成7年、真核微生物研究センター系統化学分野(西村和子教授)の助教として母校に帰任し、昨年4月に宮治先生の退官に伴い真菌感染分野に着任いたしました。ご指導いただきました宮治、西村両先生、呼吸器内科在職時からご支援を頂きました渡辺昌平名誉教授、栗山喬之教授を始め皆様にご心より感謝申し上げます。

現在、教室で中心となっている研究テーマは、病原真菌のもつ病原因子とヒトの生体防御機構との関わり合いですが、その他、輸入真菌症や、深在性真菌症の診断、治療法を始め、真正担子菌(キノコ)感染症の研究も行って参りました。最近では環境内に生息している真菌がヒトの健康に与える影響(広義のシックハウスの)研究も行っております。

当センターではこれまで医師が少なかったこともあり、医学部との関係が疎遠になりがちでした。同じキャンパスにありながら医学部の方々から「テニスコート脇にあるあの白い建物は何ですか。前から不思議に思っていました。」といった笑えない質問がよくありましたが、ここ数年、真菌症が脚光を浴びると同時に、ようやく真菌症の研究所として認識していただけるようになりました。私自身も医学部、看護学部などで病原真菌・真菌症の講義を行っております。しかし、国際的評価とは裏腹に、私どもの活動が学内では必ずしも充分知られていないのは残念なことです。

当センターは病原真菌、放線菌とそれらに起因する疾患を研究するが国唯一の公的研究機関であり、真菌・放線菌の分類、生態、あるいは真菌症の疫学、病態、診断、治療といった様々な分野で、世界のトップクラスの研究実績を持っています。一方、わが国最大の、病原真菌菌株保存施設を有しております。また、研究の傍ら、日本中の様々な病院から(時には海外から)送られてくる真菌や放線菌の同定、真菌症の診断・治療のコンサルトなども私どもの大切な活動の一つです。

こうして母校の教室を主宰することになりましたのは、皆様に恩返しをする機会を与えていただいたものと考えております。ここ数年、呼吸器内科を中心に大学院生や若手の医師が、頼もしい戦力として一緒に研究してくれるようになりました。今後は医学部を始めとする各学部と協力を進めつつ当センターを発展させ、真菌症の克服を目指して真菌感染学の研究を進めていくことが私に与えられた第一の責務と考えております。会員の皆様のご支援を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

### 千葉県医師会 代議員会議長・副議長

平成16年7月8日、千葉県医師会代議員会が開催され、代議員会議長に青木謙氏(再選・昭36)、副議長に杉岡昌明氏(新・昭37)が無競争で当選した。藤森宗徳千葉県医師会会長(昭37)と共に、活躍が期待されている。

兵庫医科大学公衆衛生学講座

島 正之(昭59)



平成16年7月1日付で、兵庫医科大学公衆衛生学講座教授を拝命いたしました。この間多くの先生方にご指導とご支援をいただきましたことに心より御礼申し上げます。

兵庫医科大学は昭和47年に開学した私立大学であり、公衆衛生学講座は昭和49年に発足し、私は第三代目となります。教室では重金属等の環境汚染による生体影響を中心に、地域保健、産業保健等の社会的活動も行われてきました。小泉直子前教授が内閣府食品安全委員会委員に就任されたため、その後任として担当させていただきましたことになりました。

平成2年に安達元明教授が就任された後は助手、講師、助教として、大気汚染を中心とする環境保健、地域保健など幅広い領域にわたって公衆衛生学的な研究と実践活動を行う機会を与えていただきました。なかでも吉田、安達両教授の時代から千葉県下の小学生を対象に行われてきた疫学研究を引き継がせていただき、長期間にわたる縦断的観察から自動車排出ガスによる大気汚染が小児の気管支喘息発症に関与していることを明らかにしました。これら一連の研究は、現在推進されているディーゼル車排出ガス対策の科学的根拠とされるなど、社会に貢献できたものと自負しております。現在は、環境省研究班に参画して全国数地域の住民を対象に疫学研究を行うとともに、中国における都市大気汚染の健康影響に関する国際共同研究にも参加しております。

測される健康問題に予防医学的観点より科学的かつ積極的に対応することが公衆衛生学の本来の使命であると考えます。かつて高度経済成長期には二酸化硫黄による深刻な大気汚染が問題となりましたが、千葉大学をはじめとする多くの疫学研究によって大気汚染と健康被害との因果関係が明らかとされ、種々の公害防止対策が講じられました。現在は自動車交通量の増大に伴い、浮遊粒子状物質による大気汚染が国際的な問題となつていきます。近年、ディーゼル車排出ガス対策が進められておりますが、都市部の大気汚染は今も深刻な状況にあります。阪神地区は首都圏と同様に自動車交通量が多く、兵庫医科大学も西宮市の阪神高速道路、国道43号線沿いにあり、大気汚染の研究を行うには「恵まれた」立地条件と言うことができます。千葉大学で学んだ経験と兵庫医科大学の伝統を踏まえて、教室員とともに広範な環境問題に取り組み、環境改善に結びつくようなエビデンスを積極的に発信していきたいと考えております。

医学教育においても公衆衛生学の果たす役割がますます大きくなっており、医師国家試験では公衆衛生学領域からの出題が年々増加する傾向にあります。また、本年度から実施されている卒後臨床研修プログラムでは地域保健・医療が必修となっておりますが、卒前教育においても地域保健を実地に学ぶことが必要であると考えます。千葉大学では学生が自主的にテーマを決めて取り組む公衆衛生学実習を実施してきましたが、兵庫医科大学では臨床実習の一科目として、保健所や老人保健施設等で一週間の公衆衛生学実習が行われています。形式は異なりますが、地域社会に出て実地に学ぶことにより、将来医師として活動する上で必要な広い視野を身につけてもらうという目的は共通です。今後多様な保健・医療機関のご協力を得て、効果的な実習を進めたいと思っております。

私は千葉大学入学後ずっと千葉県に居住しておりますが、高等学校までは関西在住だったので、ホームグラウンドに戻った気分です。とは申しましたも関西で仕事をするのは初めてです。ので、初心に戻ったつもりで公衆衛生学の教育と研究、地域における実践活動に取り組みたいと思っております。

ります。るのほな同窓会の先生方には今後より一層のご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

第9回るのほな同窓会賞 受賞者 挨拶

☆功 労 賞

実地医家のための会

永井友二郎(昭16)



このたびは、るのほな同窓会賞功労賞をいただきました。大変光栄に存じております。

私は昭和16年12月、本学を卒業、ただちに海軍軍医となり、ミッドウェー、ガダルカナル、キスカ、マキン・タラワの激戦に参加、九死に一生を得て終戦を迎えました。

戦後、ただちに堂野前維摩郷教授の第二内科に入れたいただき、弁当箱にさつま芋を入れて通いました。私はここで、堂野前教授から「医者、ことに内科医はつねに病人の生活全体をみる医者でなければならぬ」ことを教えていただきました。私はその後、成田赤十字

ご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

病院の勤務を経て、昭和32年、東京の三鷹市で開業医となりました。私はこの開業医となつてはじめて、開業医には病人の人間全体、生活全体をみる伝統があったことを知り、たいへんおどろきました。しかしその当時、開業医には研究会も、学会もなく、開業医の全人的医療の医学は未開拓のまま、記録されないまま、放置されておりました。

当時、私はまだ45歳という若造でありましたが、昭和38年2月、「実地医家のための会」という全国組織の研究会をつくらうと呼びかけました。

さいわいに、このことに堂野前教授が賛成し、川喜田愛郎教授がよく御理解下さいましたほか、日本医事新報社の初代社長、梅沢彦太郎さんから、「全力をあげてお手伝いしましょう」とはげまされ、この会を発足させることができました。また、この「実地医家のための会」の15年目には、学会も必要だと、「日本ブラ

群馬大学長 鈴木 守(昭39)



イマリ・ケア学会」を発足させることができ、今日この2つの活動は、わが国の人間的、総合的医学の重要な拠点として活動しております。同窓会皆様の御支援に心から感謝しております。

母校千葉大学医学部を昭和39年に卒業し、今年でちょうど40年目となりました。当時京成ホテルが千葉市内の唯一のホテルでありましたので、そこで卒業謝恩会が行われました。そのような訳で卒業40年を記念して本年5月に、同じホテルでクラス一同が会しました。それから1か月余りたった6月19日に、また同じホテルで千葉大学るのほな同窓会平成16年度総会が開催され、渡辺同窓会長より、るのほな同窓会賞功労賞をいただきました。私にとりまして身に余る光栄であり、ご推薦をいただきました沖馬るのほな会の先生方、ご審査をいただきました諸先



生方に、心より厚く御礼申し上げます。同様に功労賞受賞となった永井友二郎先生は、卒業した高等学校(私立武蔵高校：東京)を同じくする同窓生であり、高校、大学ともに大先輩であることを、群馬ののはな会の平形義人先生(先生も高校、大学ともに同窓)から会場で伺って初めて知り、重なる奇遇に驚いた次第です。

昭和44年に東京大学医学部学研究所細菌感染研究部の助手に就任した時を、私がマラリアの研究を始めた年とすると、30年間もマラリア研究を看板にしてきたこととなります。仕事の関係上、海外出張は100回以上はなっているかと思えます。私の専門とする領域には専門家が少ないこともあり、日本寄生虫学会理事長、世界寄生虫学者連盟会長なども拝命して参りましたが、いったい自分はこの間、学者としてどのようなままた仕事をしてきたのか、定年を迎え27年間住み着いてきた群馬大学の教授室の整理をしながら浮かんでくるこの思いは私を苦しめました。もう過ぎてしまった過去の日々を取り返すことはできません。そのような私にとって、昨年群馬大医学

学部でFDが開催された際に医学部長からいただいたベストティーチャー石井賞特別賞は大きな慰めであり支えとなりました。その上このたびは、母校同窓会から「マラリア対策推進の研究と実践」に対して功労賞をいただき、ただ感謝と恐縮の思いあるのみという心境であります。

今後法人化した国立大学は、厳しい局面にたたきられることは誰の目にも明らかです。しかし、新しい時代に相応しい存在感ある仕事を大学として進めることもまた可能でありましょう。いままで私にとって「生き場所」であった大学は、これからは私の「死に場所」となります。そのような立場に今あって、母校はやはり母なる場所であることをしみじみと感じております。このたびは本当に有り難うございました。

~~~~~  
**アジア太平洋消化器内視鏡学会会長**  
**曹 世植 (昭40)**  
**Chao, William S.C.**



この度は、ゐのはな同窓

会賞功労賞をいただきまして、誠に荣誉なことと感じております。ありがとうございます。ご推挙くださいました山浦晶教授、税所宏光教授らの同窓の先生方にも心から感謝いたします。

私は、昭和40年千葉大学医学部を卒業後、成田赤十字病院でのインターン生活を経て、41年に第一外科に入局しましたが、その年の9月末にロンドンのNorth London Postgraduate Medical Center (Prince of Wales Hospital) に留学しました。その後、North Middlesex Hospital の外科 Mr. David Bolt の下で大腸炎と大腸癌の研究と手術を学びましたが、同時に Fibreptic 内視鏡の研究をしました。4年後には、Prince of Wales Hospital に戻り、Mr. Ted O'Malley の下で General Surgery ことに食道癌と胃癌の手術について学びました。同時に同院の内視鏡室を立ち上げました。当時、第一外科の奥井勝一教授と順天堂大学外科の信田教授(その後独協大学第一外科)にお越しいただき、一緒に内視鏡の Live Demonstration を行なったことを思い出します。20数名のイギリスの有名な消化器専門医が集まり

ましたがおそらく世界で初めての Live Demonstration であつたと思えます。1970年代の初めの頃で、私の内視鏡室はイギリスの三大内視鏡センターの一つとなりました。

イギリスにいた時には、東京女子医大消化器センターの中山恒明教授にも教えていただきました。ことに食道癌と胃癌の手術については、中山教授、遠藤光夫教授と、亡くなられた小林教授が一緒に、ロンドンの私の病院へ来てくださいました。先生方は、ロンドン、グラスゴウ (Glasgow) とカデフ (Cardiff) で講演をしてくださりました。本当に楽しかった思い出です。

1978年に中国政府の招請で一時帰国しました。国を離れてまる30年間、子供時代の記憶がぞくぞくと湧いてきて、町並みは大きな変わりがなくそのまま残っているところもあるのを見ると懐かしさと嬉しさでいっぱいでした。

1979年に香港へ帰り、専門の消化器の診断、治療、胃腸手術等を主として開業しました。香港での医療は英国方式のオープンシステムであり、オフィスで診療しながら、契約病院で手術を

行い...という生活を始めましたが、内視鏡についての教育を重視し、私は香港の全ての私立病院に内視鏡室を設立しました。また、ロンドンで使用していた内視鏡を携えて、北京、上海、杭州などの病院でデモを始めました。患者さんはいっぱいで朝9時から午後5時まで内視鏡検査を行なっても、まだ沢山待っている状態で、大変なものでありました。

以来、中国本土での内視鏡検査・治療の発展のために尽くしてきました。香港中文大内視鏡センターと共同して1985年から毎年12月に Live Demonstration を始めまして、今年第19回になります。世界で唯一の3日間の研修研究会であり、内視鏡の新しい診断と治療技術を勉強できる場所です。中国本土には毎年何回も教育・講演に行っています。その場では私が創案した Hands On Training の方法は人気いっぱいです。今ではアジアの他の国でもその方法を教えております。

香港消化器病学会は私が1981年に創立しました。1984年には、香港消化器内視鏡学会も創立しました。私は11年間会長をやっておりますが、今でも元気に動き回っています。

千葉大学医学部の、また、ゐのはな同窓会の発展を願いつつ、香港からご挨拶とします。

このたびは、名誉あるゐのはな同窓会賞学術賞をいただき、大変に光栄に感じるとともに、ますます身の引き締まる思いがいたします。

私は昭和57年九州大学薬学部を卒業し、その後同大薬学院薬学研究所に進学しました。大学院在学中に当時、科学技術庁放射線医学総合研究所・臨床研究部(館野之男部長)の下、PET 研究のための新しい放射性薬剤の開発研究に従事しました。当時、放医研には脳科学関連の雑誌が無く、たびたび千葉大学医学部図書館に足を運んだ記憶が残っております。その後、福山大学薬学部・助手、米國衛

生研究所・客員研究員、科学技術振興事業団・特別研究員、国内製薬企業・研究員を経て、平成13年7月より、千葉大学大学院医学研究科にて伊豫雅臣教授(精神医学)のご指導の下、統合失調症、躁うつ病、摂食障害、薬物依存などの精神神経疾患の生物学的研究を進めております。

今回受賞の対象になりました研究は、従来より提唱されている「統合失調症のグルタミン酸神経系の低下仮説」を患者さんの血清中のD型セリン(グルタミン酸受容体のサブタイプ NMDA 受容体の内在性リガンド)を測定することにより証明したことにあります。本研究を応用することにより、統合失調症の診断、さらには新たな治療法の開発が可能になると思われま

す。本研究は、伊豫雅臣教授をはじめとする精神医学の医局の諸先生方との共同研究であり、心より感謝申し上げます。今回の受賞を糧に、さらに精進する所存ですので、今後とも指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

千葉大学大学院医学研究科 精神医学 助教 橋本謙一(九州大薬・昭57)

このたびは、名譽あるゐのはな同窓会賞学術賞をいただき、大変に光栄に感じるとともに、ますます身の引き締まる思いがいたします。

私は昭和57年九州大学薬学部を卒業し、その後同大薬学院薬学研究所に進学しました。大学院在学中に当時、科学技術庁放射線医学総合研究所・臨床研究部(館野之男部長)の下、PET 研究のための新しい放射性薬剤の開発研究に従事しました。当時、放医研には脳科学関連の雑誌が無く、たびたび千葉大学医学部図書館に足を運んだ記憶が残っております。その後、福山大学薬学部・助手、米國衛



生研究所・客員研究員、科学技術振興事業団・特別研究員、国内製薬企業・研究員を経て、平成13年7月より、千葉大学大学院医学研究科にて伊豫雅臣教授(精神医学)のご指導の下、統合失調症、躁うつ病、摂食障害、薬物依存などの精神神経疾患の生物学的研究を進めております。

今回受賞の対象になりました研究は、従来より提唱されている「統合失調症のグルタミン酸神経系の低下仮説」を患者さんの血清中のD型セリン(グルタミン酸受容体のサブタイプ NMDA 受容体の内在性リガンド)を測定することにより証明したことにあります。本研究を応用することにより、統合失調症の診断、さらには新たな治療法の開発が可能になると思われま

す。本研究は、伊豫雅臣教授をはじめとする精神医学の医局の諸先生方との共同研究であり、心より感謝申し上げます。今回の受賞を糧に、さらに精進する所存ですので、今後とも指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

千葉大学大学院医学研究科 精神医学 助教 橋本謙一(九州大薬・昭57)



カリフォルニア大学  
サンフランシスコ校  
医学部癌研究所

鉄 治 (平元)



このたびは大変な名誉を母校の同窓会から頂戴いたしました。非常に大きな名誉と喜びを感じております。受賞式の際は渡辺武同窓会長をはじめ諸先生方から身に余る祝福を受けましたことも大変な荣誉と思っております。アメリカでは母校同窓会からの表彰は最高の名誉の一つです。ですから今回いただきました黄金に輝く受賞の盾は職場のオフィスの机の上に飾らせていただいております。来客があるたびに母校のことを話しております。私は平成元年に医学部を卒業いたしました。第二外科での初期研修終了後平成5年に大学院に入学いたしました。大学院では磯野可一先生のご配慮で谷口克先生の研究室で学ぶ機会を与えられ、菅野雅元先生とお隣の研究室を主宰されておりました徳久剛史先生から薫陶を受けることができました。平成9年に大学

院を終了するとはほぼ同時に癌を研究する目的でカリフォルニアのサンフランシスコに渡りました。以来七年の年月が経過し現在では小さいながらも自分の研究室を持つことができるようになりました。私の研究テーマはこれまで一貫して大腸癌発癌機構の解明と治療のための標的分子の同定であります。今回の受賞は大腸癌初期に見られる APC と K-RAS の遺伝子変異が細胞周期調節因子サイクリン D1(CDK4)複合体のキナーゼ活性を上げることによって効率良く癌細胞が増殖しているかを論理の展開と実験を用いまして証明したことにあります。この一連の研究の副産物として CDK2 もサイクリン E も通常の細胞周期進行には不要であるというこれまでの常識を大きく覆す発見を世界に先駆けて発表をすることもできました。いただきました盾を目的にするたびに身の引き締まる思いがいたしました。これからも今回の受賞を励みに疾病の解明と新規治療方法の確立を目指し日々精進するつもりであります。今回はご配慮ありがとうございました。遠くからではあります。母校と同窓会の益々のご発展をお祈りしております。

千葉大学医学部附属病院  
アレルギー・膠原病内科医員  
渡邊紀彦 (平3)



この度はのはな同窓会賞という身に余る賞をいただきますことにありがとうございます。私は平成3年に千葉大学医学部を卒業し、第二内科(現在の細胞治療学)に入局して前教授の吉田尚先生の御指導のもと内科医としての研修をスタートいたしました。その後成田赤十字病院にて一般内科の研修を積んだ後、平成6年より大学院生として旧第二内科のアレルギー・膠原病研究室に所属して、岩本逸夫先生、齋藤康先生の御指導のもと免疫学の研究を始めました。その後研究の場を一時齋藤隆先生の主宰する高次機能制御研究センター遺伝子情報分野に移しましたが、一貫して T リンパ球の活性化制御機構の解析と自己免疫をテーマに研究を続けさせていただきました。平成11年よりアメリカ、セントルイスにあるワシ

ントン大学免疫研究センター(Hワードヒューズ医学研究所)の Murphy 教授の元に留学させていただきました。リンパ球上に発現する新規抑制性レセプター、BTLA 遺伝子の同定と機能解析を行いました。アメリカでは最先端の情報と解析技術の中で、充実した研究に没頭する生活を送ることが出来ました。しかし時に実験の行き詰まり、厳しい学問的批判や競争のプレッシャーのなか、精神的に苦しい思いをすることもありました。「科学は常に前進ばかりではない。安易な道を進まず困難に立ち向かうべきである。サイエンスの世界ではリスクを取り、それを克服したものだけが HERO になれるのだ」と Murphy 先生に励まされ、未知の物事を探求する心構えを学びました。結果的にこの留学の間に、この遺伝子がリンパ球上に発現するレセプターであり、このレセプターよりのシグナルはリンパ球の活性化や機能を抑制し、ひいては免疫応答をも抑えるということを明らかにすることができ、新規遺伝子の解析を行う大変さとともにそのワクワク感や学問的喜悦を体験することが出来ました。

平成15年よりアレルギー・膠原病内科(細胞治療学)に戻り、臨床と研究を継続しております。近年の免疫学の進歩はめざましいものがあり、日本の免疫学はその先端を行っているといっても過言ではありません。今後はこういった最先端のサイエンスを基盤とした高度な医療を行っていくこと

で貢献できればと考えております。最後にこれまでの私の仕事は諸先輩方、日頃御指導いただきました先生方の御指導御支援のおかげと感謝いたしております。若輩者ではあります。今後とも御指導御鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

同窓会員著書の紹介

「新しい漢方 寺澤捷年先生に聞く」を拝読して

寺澤捷年先生著  
鎌田慶市郎(群馬大・昭35)  
考古堂刊 定価1,470円



6月21日、寺澤捷年富山医科薬科大学教授から著書「新しい漢方」について感想文を書くようにとの依頼がありました。さてこれを受けて良いのだろうか迷いました。と言いますのは、年こそ私の方が上ですが40才の手習いで始めた浅学、教授は千葉漢方の三大先生(於パシフィコ横浜)席上、いつもの笑顔で頼まれましたのでつい「うん」と言われてしまいました。先生は卒業されて第一内

科神経学研究室に所属され、ロンドン大学に留学、帰国後、私の学生時代の恩師でもある大谷克巳教授の主宰されておられた第三解剖学教室大学院に入学されました。卒業後、神経内科に復帰されてから漢方診療に本格的に取り組まれました。その実績が認められ、請われて新設の富山医科薬科大学和漢診療部に部長講師として赴任、以後教授、診療部が講座となって主任教授、病院長・副学長として活躍のことは衆知のことです。わが身を削るような努力をされたとは思いますが順風満帆なご経歴、現在では教室スタッフ、院生、研修医、研究生など約100名を擁する東洋医学一大研究研修教育センターに育て上げた功績は寺澤教授ならではと思えます。昨年度の文部科学省「21世紀COEプログラム」には寺澤教授を拠点リーダーとする「東洋の知に立脚した個の医療の創生」が採択されています。更には3名の教授を輩出され、全国規模で和漢診療学を普及させたこと、和漢診療学に一方ならず肩入れをされましたが、この発展を目前にして他界された藤平健先生は「彼は男子の本懐を遂げた」とお喜びのことと思います。

私は講座名を「漢方」としないで、あえて「和漢診療学」とされたのか疑問でした。千葉漢方古方にこだわらず漢方に基礎をおいた医療というように、病者にとって役立つものなら、流派を問わず東西を問わず取り込むという広い視点に立った、ということと永年の疑問が氷解しました。ここにも恩師藤平健のお考えが活かされているものと思えます。

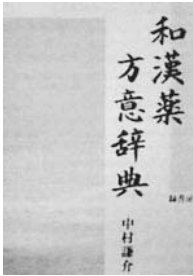
聞き手の大星光史先生はその博識、老荘思想だけでなく漢方に対する認識の深さから、話し手のお考え、言わんとするところを巧みに聞き出されておられます。内容については、生き物として人間としてまず元気であること、心身一如（心と体の結びつき）、自然治療力、医師は幅広い教養と人間性、社会との関わりに関心であってはならない、医学史を学ぶ事の大切さ、予防医学の重要性、企業倫理の評論家内橋克人氏のいう「正しく間違える」ことの危険性などを指摘され、かつまた警鐘を鳴らしておられます。

奥様お嬢様のお手になる装丁は和綴本を思わせる、日本とくに北国の伝統、藍染刺し子はいへんに美しく、内容に良く合っています。ご一読をお勧めいたします。終わりに教授とゲーテの重ね合うところをご紹介します。天才の勉強術 木原武一 新潮選書1999年より 「バラを見たら詩を作れ、

リンゴを見たらかじりつけ。」詩は寺澤教授の作句 「天才は、普通の人びとがただ一度しか持たぬ青春を何度もくりかえし経験する。」 明年度、第56回日本東洋医学会総会会頭を引き受けられた寺澤捷年教授はまさに二度目の青春真っただ中と思います。

中村謙介著

「和漢薬方意辞典」の紹介



和漢薬方意辞典 中村謙介

緑書房 定価12,000円

中村謙介(昭42)

方意は方格とも言われ、その漢方薬の意志、性格を意味する。漢方薬を擬人的に捉えた発想による。それぞれの漢方薬の方意は、それが適応する状態を明らかにしたもので、漢方の習得は、ここに帰結する。これこれの症候群の在る場合には、この漢方薬を用いるのが良いという知見が発見され、その知見が数百年の歴史の吟味に耐えて確認され続けている。

漢方再生の嚆矢は和田啓十郎著『医界の鉄椎』（明

しなれば、いつか彼岸に達することがあるだろう。」 和田啓十郎は『医界の鉄椎』出版後の6年、45歳で没する。啓十郎の長子政系（大正11年本学卒）は、よくその遺託に依りて、後年（1962）に『漢方治療提要』を出版した。平成2年（1990）慢性活動性肝炎に対する小柴胡湯の有効性が、多施設二重盲検比較試験により、初めて確認される。啓十郎の思いは80年を経て現実となった。

漢方も「EM」の洗礼を受けて、検証の結果が伝えられてくる。その多くは漢方の従来の主張を追認するに止まり、漢方の疾病把握の妥当性、或いは漢方治療に於ける鑑別診断の妥当性の検証といった、漢方の核心に迫るには至っていない。一層洗練された手法を用いて、漢方そのものが評価される日の到来が望まれる。先に触れた和田正系は次のように言う。

「時勢と言うものは善い悪いの問題ではない。善いものが栄え、悪いものが亡びるとは限らない。要するに多数決なのである。多数を得た方が栄えるのである。多数決は選挙や議会ばかりではない。科学の世界でも、学問の世界でも同様である。

だと考える。本書出版の趣旨である。ところで、漢方治療の魅力とは何であろうか。漢方は患者の自覚症状を重視する。そのため様々な愁訴に次々と手段を繰り出すことができる。漢方は苦痛に密着した手立てを講じながら、病気を中にして、患者の生涯を共に歩んでいくという実感があるのだ。この実感は、私自身がかつて感じていた、患者と医者との乖離という、一種の無力感を払拭してくれる。漢方は患者も癒すし、医者も癒す。現代の医療が求めているものが、漢方の中にあると感じている。

落合武徳(昭41)編

「大腸癌・炎症性腸疾患」

— 専門医から学ぶ最新治療 —



メディカルビュー社 定価5,000円

幸田圭史(昭59)

在活躍中のオピニオンリーダーがそろっており、その論文内容は読者自らが推進する新しい診断治療法をその根拠から説明されており説得力がある。炎症性腸疾患の分野では、東邦大学佐倉病院内科の鈴木康夫先生が、ステロイド以外の治療法としてUCに対するCyclosporin-A、白血球除去療法の有効性、またCrohn病に対するInfliximabの治療効果を解説され、現段階での貴重な資料である。兵庫医科大学の山村武平先生は過去の膨大なUCの外科治療例の経験から、合併症のない、術後機能を温存した手術手技

落合武徳教授が主催された第4回フォーラム「大腸癌と炎症性腸疾患」は2004年1月に東京ホテルオークラにて開催され、大腸疾患の専門医師のみならず、種々の分野の先生方やコメディカルなど多数の参加を得て盛会であった。本書はこのときに依頼講演をされた11名の先生方がその講演内容を簡潔にまとめられた論文集となっている。演者の先生方はそれぞれの分野で現

寄贈図書



や癌化に対するサーベイランスを説明された。大腸癌の分野では、UCSF cancer centerの鉄治先生が大腸癌の発生から転移にいたる遺伝子変化やシグナル伝達経路を説明され、分子標的治療の対象となりうる因子を丁寧に解説された。栃木がんセンターの菅野康吉先生は、全国調査の対象となっている遺伝性非ポリポーシス大腸癌 (HNPCC) の概念形成の歴史から関与する遺伝子変化、これを利用した診断とカウンセリングへの応用など診断治療体系について解説された。癌研究会附属病院の山下孝先生は、近年治療成績の向上が顕著な進行直腸癌の治療法の歴史と、欧米ではスタンダードとなりつつある術前放射線治療について適応や

留意点を丁寧に解説された。放射線医学総合研究所の山田滋先生は、癌に対する重粒子線治療の治療効果をその理論的根拠から説明され、直腸癌の術後局所再発に対する治療応用への展望など理解しやすい内容となっている。国立がんセンター東病院の齊藤典男先生は、「究極の肛門温存術」と称される、括約筋切除を伴いながら肛門機能を温存する、新しい直腸癌手術をその理論的根拠と手術手技とともに解説された。北里大学の渡辺昌彦先生は近年広く施行されている大腸疾患に対する鏡視下手術の手技および治療効果を講演され、本書ではその安全性と治療成績を記述された。東邦大学佐倉病院の山田英夫先生は後腹膜からアプローチする

大腸鏡鏡視下手術の方法とその治療成績、適応を考察され、また鏡視下手術のトレーニングについて解説された。都立駒込病院の森武生先生は大腸癌の肝転移に対する切除、化学療法など集学的治療の適応と成績について詳しく述べられた。東京医科歯科大学の有井滋樹先生は大腸癌肝転移に対する多数の手術治療の経験から、その適応と実際の手技について考察されている。それぞれの論文の内容は詳細でありまた分かりやすく、本書は大腸疾患治療に実際に携わっているものとして貴重な資料となっている。特にこれからこの分野で仕事をしようとする若手医師やコメディカルの方々に有用であろう。

\*著者より\* 昭和20年、千葉大学第二内科に戻ってきた当時は、心電図室には写真撮影1台が細々ながら動いているだけでした。それから60年、デジタル心電計は、血圧計と同様手軽に使われるようになりましたが、その判読技術は50年前と変わらぬというのも驚くべきことと思います。この著書(1993年初版)には、半世紀前に心電計係りが苦労したことなど、相当細かいところまで書いてあります。長尾 透(昭16)

附属病院二ニュース

病院長 藤澤 武彦(昭42)

附属病院二ニュース(H16・4・5・H16・7)

○平成16年4月1日

国立大学法人への移行

国立大学法人法の施行により、平成16年4月1日から、国立大学は一斉に大学法人としてスタートすることとなり、本学の名称も千葉大学から国立大学法人千葉大学となった。

○平成16年4月1日

診療科再編成

診療科組織を6診療部門別の診療科組織に再編成した。

○平成16年6月17日

第58回全国国立大学病院長会議

宮崎大学を当番校として行われた。主な議題は「平成16年度国立大学附属病院長会議予算(案)について」「国立大学附属病院長会議の事務局の設置について」「治験の活性化について」「薬学実習について」であった。この後行われた常置委員会において、引き続き本

院が常置委員会委員長校(任期2年)となった。

○平成16年7月1日

地域医療連携部(院内措置)の設置

地域の医療機関との連携・協力を推進し、患者に専門的かつ質の高い医療を提供することを目的として地域医療連携部(院内措置)を設置した。

○平成16年7月1日

人事異動

千葉大学理事就任 守谷 秀繁(昭42)

助教授昇任 免疫発生学 山下 政克(筑波大平元)

麻酔学 山本 達郎(昭57)

神経病態学(旧神経内科) 桑原 聡(昭59)

頭頸部腫瘍学 寺田 修久(秋田大昭57)

耳鼻咽喉科学講師より 講師昇任 法医学 早川 睦(平3)

山梨大学副学長就任 塚原 重雄(昭36)

兵庫医科大学教授就任 公衆衛生学講座 島 正之(昭59)

(千葉大公衆衛生学助教授より)

白濱龍興(昭41)著

「自衛隊災害医療」

悠飛社 定価1,400円



神経内科 ○小児・母性・女性診療部門 婦人科、周産期母性科、小児科、小児外科

○放射線診療部門 放射線科

また、既存の会議もその役割に応じた名称に改めた。

「科長会議」↓「人事会議」、

「事務連絡会議」↓「中央診療施設等会議」、

「病院連絡会議」↓「病院実務者会議」

○平成16年6月17日

第58回全国国立大学病院長会議

宮崎大学を当番校として行われた。主な議題は「平成16年度国立大学附属病院長会議予算(案)について」「国立大学附属病院長会議の事務局の設置について」「治験の活性化について」「薬学実習について」であった。この後行われた常置委員会において、引き続き本

院が常置委員会委員長校(任期2年)となった。

○平成16年7月1日

地域医療連携部(院内措置)の設置

地域の医療機関との連携・協力を推進し、患者に専門的かつ質の高い医療を提供することを目的として地域医療連携部(院内措置)を設置した。

○平成16年7月1日

人事異動

千葉大学理事就任 守谷 秀繁(昭42)

助教授昇任 免疫発生学 山下 政克(筑波大平元)

麻酔学 山本 達郎(昭57)

神経病態学(旧神経内科) 桑原 聡(昭59)

頭頸部腫瘍学 寺田 修久(秋田大昭57)

耳鼻咽喉科学講師より 講師昇任 法医学 早川 睦(平3)

山梨大学副学長就任 塚原 重雄(昭36)

兵庫医科大学教授就任 公衆衛生学講座 島 正之(昭59)

(千葉大公衆衛生学助教授より)

祝 叙 勲

平成16年 春の叙勲

瑞宝中綬章

川口 幸夫(昭32)

あのはな同窓会への書附

故岡田忠雄氏(九州医専昭23)の奥様幸子様より3万円

ありがとうございます。

人事異動

千葉大学理事就任 守谷 秀繁(昭42)

助教授昇任 免疫発生学 山下 政克(筑波大平元)

麻酔学 山本 達郎(昭57)

神経病態学(旧神経内科) 桑原 聡(昭59)

頭頸部腫瘍学 寺田 修久(秋田大昭57)

耳鼻咽喉科学講師より 講師昇任 法医学 早川 睦(平3)

山梨大学副学長就任 塚原 重雄(昭36)

兵庫医科大学教授就任 公衆衛生学講座 島 正之(昭59)

(千葉大公衆衛生学助教授より)

# ク ラ ス 会

## 白 兎 会

(昭17)

白兎会の春の懇親会は、平成16年4月18日(日)正午より東京駅構内の「精養軒」で開催した。今回は級友は、窪田静夫、藤村満寿夫、水間正冬の3名のみ、又故人の奥様方は、浦部秀子夫人、木村照子夫人、橋爪文子夫人、村上レイ子夫人の4名で、計7名の出席であった。実は東京周辺の級友16名と奥様方7名に対して案内状を出したのだが、



(写真は、前列左より浦部、橋爪、木村、村上、後列左より藤村、窪田、水間)

腰痛、膝痛、骨折などで歩行障害のある者が多くなり、脳梗塞後遺症などで出席不能の者が多くなった。今後は益々出席困難になる者がふえそうで残念である。昨年11月に大島璉君が亡くなり、本年3月には幸島秀夫君が亡くなったのでいよいよ寂しくなった。それでも出席した皆さんからは秋も又お会いしたいとの要望が強いので、11月14日(日)に開催することになっている。

(水間正冬)

既に御存知かと思いますが、念のためお知らせ致します。

幸島秀夫  
平成16年3月11日、肺炎で死亡

## 爾久会・卒後50周年

(昭29)

平成8年には「爾久会」と命名し記念の写真文集を出して消息を交換し、毎年級会を開いている昭和29年卒も、卒後50周年を迎えました。区切りは地元でという自然の声で、千葉住居の、島崎、柴田、窪田、樋口、若菜が世話役、場所も医学部と目と鼻のホテル・サンガーデンを選び、平成16年5月22日集まりました。

当日は、「今まで速くあまり出られなかった。50周年はぜひ」と熊本から越しの山下卓先生をはじめ35名と家族会員4、計39名が集いました。平均年齢75前後の会員(名簿からの全出席期待数73)よく集まったほうかと思う反面、初回案内に出席とされたのに、その後「体調不良」で御欠席が数名あったのは残念でした。

当夜の会場は、開会前からあちこちで現況交換の歓談が始まっており、その間に割り込んで、事務報告、記念写真撮影、乾杯、そしてまた歓談。その中でやや討議らしかったのは「来年

は何処で」のテーマ。これまで、関東各県はもとより、県在住の方々の大変なお骨折りで静岡、山梨等でも開かれております。「こ

らで一息」なんて声は全くなく、来年は羽生先生等のお骨折りで茨城県、できれば潮来近辺でもとなりました。

2日目は泊まり組が二手に分かれ、少数組6人は名門袖ヶ浦カントリークラブでゴルフ。多数組15人は柴田幹事の御苦勞により、ルールの厳しい

成田空港の見学。まず航空科学博物館、次に至近距離から外国旅行の度にお世話になった離着陸の實際を見学。滑走路の多種類の航空灯火の実際を見ながら、管理の複雑さの一端を知りました。



すように、解散。  
(平成16年爾久会出席者)  
朝岡威親、荒川直人、荒木晃、有馬道男、梅村喜夫、大津正典、大藤正雄、岡野正、川野元茂、小出紀、佐野迪雄、佐藤忠夫、実川浩、柴田千葉男、島崎淳、東振栄、窪田淑子、鈴木日出和、遠山正道、富岡清海、中神恒男、中島哲二、中野練一、西三郎、根本幸一、野口晃平、長谷川透、羽生富士夫、樋口道雄、福井朗、山下卓和、田房治、福田恵司、渡辺

保の原寛君以外は東京近郊の大田和明、大沢弘和、片桐優、菊島竹丸、小関芳昌、佐藤宏、田口貞文、津村澄雄、成田一郎、本間彬、森巨敬(敬称略)の12名  
森会長の挨拶の後、物故者への黙祷が始まる。卒時45名の級友も昨年12月逝去の関谷仁彦君迄19名を失い現会員数26名となりました。

## 八 千 会

(専26)

四郎、若菜坦(家族会員)窪田靖夫、有馬夫人、中野夫人、若菜夫人(若菜坦)

前日は台風の接近、当日は小泉総理が日朝国交正常化交渉、拉致被害者家族引き取りに北朝鮮へ出発と言う何となく慌ただしい感じの5月22日(土)午後6時より卒後53回目の同窓会、八千会が新宿京王プラザホテル内、中華料理店南園にて開催された。



大田総務より総務報告、大沢より会計報告がなされ小関監事により承認された。議事として森会長より今後の会開催頻度の確認、将来に向けての会費徴収方法の見直し等提案があり討議された。以上にて総会終了、小関先生の司会で懇親会に移る。定例の全員集合写真撮影後暫く飲食を楽しみいささか酔いのまわった頃、各自の近況報告がなされる。病気の話、ボケを心配する話、友人の病状報告、引退や趣味の話、お互いの話を興味深く聞き入る。8時を

まわり二次会場45階のスカ  
イラウンジに移動、ききぬ  
話に花が咲き10時近く来年  
の再会を胸に散会していっ  
た。  
(大沢弘和)

五五会

(昭30)

卒業の昭和30年が西暦1955  
年であったこと(と、当時  
ゴーゴーが流行っていたこ  
と)から五五会と名付けら  
れ、幹事持ち回りで昭和43  
年からは毎年開催している。  
今年も千葉市近郊の小林  
富久・清水良平・滝口光雄・  
中島和彦・吉原一郎・志村  
昭光が幹事となり、会長の  
永野俊雄とともに準備に当  
たり、平成16年5月22日午  
後6時より千葉市の京成ホ  
テル・ミラマーレで開催し  
た。

開会に先立ち、この一年  
間に逝去された青木淳君・  
鹿島洋君・山野徳雄君の冥  
福を祈って幹事の吉原君の  
発声で黙祷を捧げた。

引き続き、永野君から会  
長の挨拶と来年の卒後50周  
年記念誌の編集委員長とし  
て協力要請があったほか、  
慶事として春の叙勲・志村  
昭光、のびな同窓会功労  
賞・高橋康、日医最高優功  
賞・伊谷昭幸の諸君が披露  
された。

のびな同窓会副会長に  
就任した富田君の音頭で乾  
杯の後、出席者がワン・ミ  
ニッツ・スピーチとしてそ  
れぞれ近況を話した。出席  
者は別記の37名と同伴者2  
名であったが、

105人の会員  
(同時入学2  
名を含む)の  
中で残念なこ  
とに既に物故  
者が32名もあ  
り、欠席者36  
名については  
葉書でお願い  
してあった近  
況報告のコピー  
を出席者に配  
布した。悠々  
自適組、後継  
者待ちの現役  
組、一病息災  
組等人それぞ  
れであるのは  
致し方のない  
ことかもしれ  
ない。

今回の主な  
目的に来年の  
卒後50周年記  
念行事の相談  
があった。記念植樹等の案  
もあったが、記念誌の発行  
が既に決まってはいるもの  
の、全員古稀を過ぎている  
ため、物故者のご遺族から  
の寄稿や会員による追悼文

をどうするか、会員中にも  
原稿を書かない者と書けな  
い者をどうするかなどにつ  
いて、これからの編集委員  
の苦勞が思いやられる。卒  
後30周年にも記念誌を刊行  
をどうするか、会員中にも  
原稿を書かない者と書けな  
い者をどうするかなどにつ  
いて、これからの編集委員  
の苦勞が思いやられる。卒  
後30周年にも記念誌を刊行



をどうするか、会員中にも  
原稿を書かない者と書けな  
い者をどうするかなどにつ  
いて、これからの編集委員  
の苦勞が思いやられる。卒  
後30周年にも記念誌を刊行

をどうするか、会員中にも  
原稿を書かない者と書けな  
い者をどうするかなどにつ  
いて、これからの編集委員  
の苦勞が思いやられる。卒  
後30周年にも記念誌を刊行

をどうするか、会員中にも  
原稿を書かない者と書けな  
い者をどうするかなどにつ  
いて、これからの編集委員  
の苦勞が思いやられる。卒  
後30周年にも記念誌を刊行

会を祈って散会したのは10  
時近くであった。  
なお、本年度五五会の開  
催にあたり、故川口新一郎  
君のご遺族(久邇子様)よ  
り「偲ぶ会」に代えての多  
額の酒香料のご寄付と亡夫  
への想い出の記を頂戴した  
ことを付記してお礼に代え  
たい。

出席者：浅見敦・淺利行  
男・新井多喜男・伊谷昭幸・  
伊東正作・伊藤敏夫・池田  
草二・岩井忠志・内海滉・  
片山喬・加濃正明・上牧順  
三・貴家昭而・小泉準三・  
小林富久・齊藤正道・清水  
良平・志村昭光・鈴木裕太  
郎・高橋康・高橋宣光・滝  
口光雄・十束孝朗・富田裕  
中島和彦・中野政雄・永野  
俊雄・平山皓・藤山嘉信・  
町井彰・松田三樹雄・宮内  
好正・望月良夫・山本輝通・  
横田俊二・吉原一郎・渡辺  
英詩  
(志村昭光)

43 クラス会

(昭43)

クラス会会員全員が60才  
を越えたことを記念して、  
平成16年6月6日(日)午  
後3時半から東京駅ステー  
ション・ホテルで2年半ぶ  
りに第13回のクラス会を開  
催した。当日は生憎の雨で

はあったが、  
東京駅構内な  
ので濡れずに  
会場へ行けて  
好都合であっ  
た。35名のメ  
ンバーが集合  
し、さらに桑  
田次男先生も  
御出席下さっ  
たのでクラス  
会がとて盛  
りあがり、幹  
事として大変  
うれしいこと  
であった。鈴  
木秀君の司会  
により、5月  
3日に「なっ  
た坪内弘行君  
へ黙祷を捧げ、  
盛克己幹事長  
の挨拶に続い  
て桑田先生のお話をうかが  
い、最遠方である沖繩から  
出席の堀川義文君による乾  
杯で久しぶりの旧交を温め  
た。古山信明君の司会に代  
わり各テーブルごとに一人  
一人が近況を述べ、赤尾健  
夫君のフルート演奏、俳人  
でもある岩間汪美君の俳句  
の披露もあり、アツという  
間の3時間であった。充実  
した多忙な毎日を送ってい  
るためか、全員が還暦を過  
ぎたとは思えないほど若々  
しく元気であった。11月に



はあったが、  
東京駅構内な  
ので濡れずに  
会場へ行けて  
好都合であっ  
た。35名のメ  
ンバーが集合  
し、さらに桑  
田次男先生も  
御出席下さっ  
たのでクラス  
会がとて盛  
りあがり、幹  
事として大変  
うれしいこと  
であった。鈴  
木秀君の司会  
により、5月  
3日に「なっ  
た坪内弘行君  
へ黙祷を捧げ、  
盛克己幹事長  
の挨拶に続い  
て桑田先生のお話をうかが  
い、最遠方である沖繩から  
出席の堀川義文君による乾  
杯で久しぶりの旧交を温め  
た。古山信明君の司会に代  
わり各テーブルごとに一人  
一人が近況を述べ、赤尾健  
夫君のフルート演奏、俳人  
でもある岩間汪美君の俳句  
の披露もあり、アツという  
間の3時間であった。充実  
した多忙な毎日を送ってい  
るためか、全員が還暦を過  
ぎたとは思えないほど若々  
しく元気であった。11月に

はあったが、  
東京駅構内な  
ので濡れずに  
会場へ行けて  
好都合であっ  
た。35名のメ  
ンバーが集合  
し、さらに桑  
田次男先生も  
御出席下さっ  
たのでクラス  
会がとて盛  
りあがり、幹  
事として大変  
うれしいこと  
であった。鈴  
木秀君の司会  
により、5月  
3日に「なっ  
た坪内弘行君  
へ黙祷を捧げ、  
盛克己幹事長  
の挨拶に続い  
て桑田先生のお話をうかが  
い、最遠方である沖繩から  
出席の堀川義文君による乾  
杯で久しぶりの旧交を温め  
た。古山信明君の司会に代  
わり各テーブルごとに一人  
一人が近況を述べ、赤尾健  
夫君のフルート演奏、俳人  
でもある岩間汪美君の俳句  
の披露もあり、アツという  
間の3時間であった。充実  
した多忙な毎日を送ってい  
るためか、全員が還暦を過  
ぎたとは思えないほど若々  
しく元気であった。11月に

弘道、中村宏、藤塚万里子、  
藤塚光慶、古山信明、星野  
聰、堀川義文、松清央、  
盛克己、横堀直孝、竜崇  
正  
(千葉彌幸)

35周年沖繩クラス会

(昭44)

平成16年7月18日(日)、  
昭和44年卒業のクラス会が  
35周年を迎え、沖繩で開か  
れました。我々のクラス会  
は今まで全て千葉市内のニュー  
ツカモトホテルで開いてき  
ましたが、初めて他県での  
開催になりました。同級生  
の中に現在沖繩県在住者が  
5名(高良宏明・吉井與志  
彦・真栄城弘史・落合靖男・  
照屋功)いますので5年前  
から幹事をしていただきた  
いと頼んでいました。また、  
クラス会としては初めて夫  
婦同伴となりました。

私は、千葉社会保険病院  
の名誉院長若垂信先生(昭  
26)が那覇市におられ、お  
会いするため一日前に沖繩  
入りしましたが、その飛行  
機を降りたところで高橋夫  
妻、吉田明弘夫妻、山本健  
介君と偶然会ったため、一  
緒にホテルまでジャンボタ  
クシーで着きました。余談  
ですが翌日はこの三夫婦が  
その同じ運転士のジャンボ  
タクシーで南沖繩巡りに出

かけ首里城、奥武島でのグラスボートによる海中見学・玉泉洞・平和のいしじ・ひめゆりの塔・海軍司令部跡を見学することができ、楽しい思い出を作ることができました。

クラス会は午後6時からホテル日航那覇グランドキヤッスルで参加者32名で開かれました。最初に集合写真を撮るため会場の一角に三列に並んだところ吉田操夫妻が遅れていることに気づき5分間並んだま待ち、揃ったところで写真を撮りました。

幹事高良君の開会宣言。奥村康教授の乾杯の挨拶と長嶋茂雄の脳梗塞の話が始まり、クラス会幹事の私が会務報告をさせて頂きました。

教授になられている方は奥村康(順天堂大)、浅井利夫(東京女子医大)、崎尾秀彰(獨協大)、高良宏明(琉球大)、吉井與志彦(琉球大)、神津照雄(千葉大)の7名でした。泉屋嘉昭(清水厚生病院)と西島浩(千葉社会保険病院)が臨床教授の称号を頂いています。その後沖繩幹事全員で歓迎の歌として素敵な曲「なだそうそう」を歌ってくれました。歌は夏川りみのようには聴こえません

でしたが歓迎の気持ちは充分伝わりました。応援に吉井田美子様、緒方政子様、美声があったお陰で何とか無事歌い終わりました。

参加者全員が近況報告しているうちになごやかに会が進み、次回は来年四国香川県で内海武彦君の幹事で行われることが決まりました。再来年は台湾での開催の声も出ています。宴会の中で内海君の御長男と浅野君の御長女が結婚されたお話を聞き話題になりました。

二次会は同ホテル20階のサンセットラウンジで11時まで飲みながら語り合い再会を楽しみました。三次会は国際通りのカラオケ店へ集合しましたが、大きい部屋がなく六畳位の部屋に14、5人がすし詰めになり、立ったままの人が二人出て楽しい、さわがしい合唱になりました。同じ



年です。宴会の中で内海君の御長男と浅野君の御長女が結婚されたお話を聞き話題になりました。

翌日の19日は18名が沖縄北部観光に参加しました。大変良い天気恵まれ沖縄美ら海水族館に着いた時は日差しが強く肌が焼けるようでした。伊江島のタッチューという山が23年前に来たときより何故か低くなったように感じました。水族館内のジンベイザメの大きさに圧倒されたり、愛くるしいクマノミを探したり大人で

も結構楽しめました。昼食は高級リゾートホテル、ザ・ブセナテラスで美味しい料理を海をみながらとりました。大変眺望の良いところで、皆また来たいと云っています。隣には沖繩サミットの行われた万国津梁館がありました。

帰りのバスの中でガイドさんが歌ってくれた芭蕉布の歌がとても素敵だったので、千葉へ帰ってから玉泉洞で買った沖繩の歌のCDの中の芭蕉布の歌を車の中で聴いています。CDの中には、島歌・花・泪そうそう・さとうきび畑・沖繩民謡などがあり今でも沖繩旅行の余韻に浸っています。楽しい沖繩クラス会が大成功になったことを沖繩幹事の皆様に心から感謝申し上げます。(西島浩)

江戸川るのはな会総会が平成16年6月12日(土)に市川市の料亭「枋木屋」で午後5時より開催されました。梅雨空のもと幸、雨も降

**各地るのはな会  
だより**  
**江戸川のはな会**

らずまずまずの天気でした。会員40名のうち16名の出席(出席予定の4名欠席)と、大

まずこの一年に御逝去された青木淳先生(昭30)と和田育二先生(昭24)の御冥福を祈り黙祷を捧げました。次いで藤山会長の挨拶・会計報告・監査報告と型通り順調に会務報告が終りました。

本年度をもって藤山会長の任期終了に伴い、次期会長の選任が行われました。そして次期会長に伊谷昭幸(昭30)、副会長に福田陽(昭32) 幹事に小野健次郎(昭39)と木村靖宏(昭43)、会計に秋田徹(昭51)・監事に小倉一郎(昭20)の諸先生が選ばれ、満場一致で承認されました。新執行部の活躍が期待されます。



ライトである講演会に移りました。はじめに医学部長福田教授の「千葉大学大学院医学研究院・医学部の現状と展望」と題する講演があり、その中で国立大学の機能区分(千葉大学の位置付け)、国立大学法人化・医学部の大学院化・医学研究院の活性化・医学教育改革と医師国家試験・共用試験・附属病院での臨床研修その他について詳しく御説明がありました。今後の課題として、法人化への対応●医師養成●大学・大病院としての機能●医療供給体制への協力●同窓会(るのはな会)との連携などがあるとお話がありました。

総会終了後、今回のハイ

附属病院長藤澤教授は「大病院の現況」について講演され、病院の診療科の呼称の変更について、従来の一内・二内・一外・二外云々というのではなく、①内科診療部門②外科診療部門③感覚・運動機能診療科部門④脳・神経診療部門⑤小児・母性女性診療部門⑥放射線診療部門に分け、臓器別にわかり易くなったこと。総合診療部門新設について説明されました。そして大病院の基本理念・SARSへの対応・緊急対応システム・医療安全管理医療スタッフマニュアル・中期目標中期計画等についてくわしく説明がありました。大学も改革の真只中で大変だなと一納納得致しました。いくつかの質疑応答のあと、懇親会に移りました。

山上健次郎元会長の「乾杯」の発声で喉をうるおし、会食し、程よくお酒がまわったところで出席者一人ひとりが、自己紹介、近況報告等1分間スピーチを行い、和気あいあいのうちに楽しい会も9時すぎにお開きとなりました。

出席者：山上健次郎(専17) 笠川猛(昭22) 今井力(昭22) 一志典夫(昭25) 高田輝雄(専25) 伊谷昭幸(昭30) 藤山嘉信(昭30) 福田

四国のはな会

(第8回)

陽(昭32) 山本成元(昭34) 岩倉弘毅(昭37) 木村靖宏(昭43) 南郷晃(昭49) 和田徹(昭51) 森照男(昭53) 宮澤浩(昭63) 岡本和久(平2) (岩倉弘毅)

小越章平・高知医科大学名誉教授の呼びかけで始まった四国のはな会も、第一回の高知から一巡して、二回目に入りまして、今回は宿泊の利便性も考えて、高知市上町にある城西館の四季亭で4月17日に開催しました。

高知医科大学は今年度から、高知大学医学部として



再出発したため、小越会長は高知医科大学最後の名誉教授となられたことを少し寂しそう(?)に披露された後、高知名物ちゃんばら貝、のれそれ、鰹のたたき、クエ鍋などを肴に、高知の地酒(自由は土佐の山間より・四万十川など)で宴は大いに盛り上がりました。幹事の個人的な意見としては、学生時代にお世話になった薬学の久我哲郎先生に30数年振りにお会い出来たことと、渡部士郎先生が医者の集まりに灰皿を用意するとは何事だとすぐに撤去させたことが印象的でした。

再出発したため、小越会長は高知医科大学最後の名誉教授となられたことを少し寂しそう(?)に披露された後、高知名物ちゃんばら貝、のれそれ、鰹のたたき、クエ鍋などを肴に、高知の地酒(自由は土佐の山間より・四万十川など)で宴は大いに盛り上がりました。幹事の個人的な意見としては、学生時代にお世話になった薬学の久我哲郎先生に30数年振りにお会い出来たことと、渡部士郎先生が医者の集まりに灰皿を用意するとは何事だとすぐに撤去させたことが印象的でした。

当日の出席者は以下の通りです(敬称略)。ご夫婦で出席された方が5組、ご子息も一人出席されたため、総勢20人でした。

昭26久我哲郎・宮地健三・渡部士郎(高知) 昭28森山典男(高知) 昭30大倉俊彦(高知)・山野徳雄(愛媛) 昭36小越章平(高知) 昭44内海武彦(香川) 昭50松谷和徳(高知)・山本日(昭25)、森本

西湘のはな会

出樹(愛媛)・山本博憲(幹事) 昭52多田羅勝義(徳島) 昭61下田直史(愛媛)・中澤亨(香川) 次回は愛媛の担当となります。(山本博憲)

平成15年・16年度の「西湘のはな会」総会が平成16年4月15日(木)午後7時より小田原市内の老舗の料亭「清風楼」にて催された。福田会長より市立病院の新任医師の紹介と本年度から始まった新臨床研修医制度、病院機能評価の取り組みなど最近の動きについての説明があった。

大先輩の斎藤輝六先生のお話があり、2年ぶりの再会は夜のふけるまで食事に舌鼓を打ちながら続いた。閉会前に撮ったスナップ写真を添付します。



出席者は斎藤輝六(昭20)、吉田充(昭23)、菱木達明(昭24)、石坂修(昭25)、森本

神奈川のはな会

武志(昭25)、鈴木徳雄(昭26)、穂坂隆義(昭26)、宮内好正(昭30)、依田勇二(昭32)、佐藤文彦(昭43)、渡辺浄(昭53)、太田正保(昭55)、飯沼克博(昭55)。小田原市立病院勤務の会員は福田淳(昭41)、安野憲一(昭48)、井上育夫(昭56)金沢大、川野裕一(平4)、亀高尚(平4)、池内哲(平5)、鈴木功一(平11)杏林大、酒井望(平13)、高原善博(平15)秋田大、小林紘子(平15)高知医大)。残念ながら欠席されたかたは、最年長会員の中山恒明先生(昭9)他、

平成16年7月10日(土)横浜のホテル、キャメロットジャパンにて、平成16年度神奈川のはな会総会が開催されました。富田裕会長挨拶に次いで、特別講演者、行天良雄先生(昭24専・公衆衛生学)、来賓、のはな会会長佐藤通先生(昭35・胃腸外科)、山梨のはな会会長横山宏先生(昭25専・小児科)、埼玉のはな会会長井上幸万先生(昭27・外科)、埼玉のはな会有馬道男先生(昭29・外科)、茨城のはな会会長代理・佐藤忠夫先生(昭29・内科)、栃木のはな会会長代理・坂田早苗先生(昭34・外科)、(株)パイオニア顧問木川静雄氏が紹介されました。

そして、物故者関野康男先生(昭25)、大島璉先生

中村隆次(昭16)、大林泰(昭24)、霜島正雄(昭24)、武井義夫(昭29)、福田俊夫(昭30)、志村公男(昭31)、新井弘(昭32)、尹良紀(昭51)金沢大、星野和彦(昭58)、鶴樫実(平2)の方々でした。(安野憲一)

平成15年度庶務報告、決算報告、平成16年度予算案が全員拍手にて承認されました。来賓のご紹介に続いて医事評論家・元NHK解説委員の行天良雄先生の特別講演となりました。「これからの医師のあり方」という題でお話頂きました。戦後の国民皆保険

制度が導入された頃の歴史から、先生が厚労省の諮問委員の一人としてご苦心された最近の卒後研修の問題にも触れられました。研修医の最低限の生活を維持すべく、具体的な給与額を司法生、弁護士などのものを参考として勘案されたことなど、大変興味あるお話もご披露してくださいました。先生の広範囲にわたる知識と会員を惹きつけてしまう

話術に感銘を受けました。間に全員の記念写真の撮影ははさんで、懇親会に移りました。懇親会には毎年神奈川出身の千葉大学在学中の学生さんを招待していますが、今年は8名の学生さんが出席してくれました。総勢60名で、和気藹々賑やかにパーティーが行われました。ご来賓のご挨拶、新役員として地区幹事になられた高橋



懇親会には毎年神奈川出身の千葉大学在学中の学生さんを招待していますが、今年は8名の学生さんが出席してくれました。総勢60名で、和気藹々賑やかにパーティーが行われました。ご来賓のご挨拶、新役員として地区幹事になられた高橋



静岡県支部

修先生(横浜、昭53、平和病院理事長・院長、十川康弘先生(横浜、昭55、聖隷横浜病院主任医長)、越川尚男先生(横須賀、昭55、浦賀病院院長)、また、新規開業された川村ひろみ先生(昭46、精神科)、同級生で10月に開業予定の島田陽子先生(昭46、内科)がご挨拶されました。神奈川県のはな会では、学生さんにもお役にたてるよう模索中ですが、卒後の医師像などの理解の一助になればと臨床現場でご活躍中の横浜労災病院副院長西川哲夫先生(昭47、内科)、金沢病院院長高山篤也先生(昭56、整形外科)、清川病院(鎌倉)副院長土佐純一先生(昭49、脳外)から学生さんへ、いろいろな規模病院における臨床の現状について具体的なご説明を頂きました。将来の卒後研修などに同窓会が何か役立てばとの願いもあります。尚、毎年この総会に合わせて、会報「ろのはなかながわ」を発行し、参会者の皆様にお持ち帰り頂き、さらなる情報交換と親睦を深めるようにしています。

(三科孝夫 昭46)



猛暑の中、平成16年7月24日に静岡県支部総会が静岡市のホテルセンチュリー静岡で開催された。当支部は会員数が甲乙合わせて220名である。これまで二年に一度、西部・中部・東部の順で幹事をするようになっており、今回は西部が担当であるが、東西に長いことを考慮して近年は担当地域に関わらず県中央の静岡市で開催することになっている。まず議事総会が開かれ、佐藤会長のご意向もあり、



会則の改正が提案され承認された。その骨子は今まで二年に一度あった総会を会計年度とのずれがないように毎年行うことであり、会の通称も「静岡ろのはな会」とすることも決まった。さらに会長より、ろのはな同窓会本部の動き、今後の方向性などが併せて報告された。

今回は役員改選も行われて佐藤通先生(昭35)が新たに会長に就任された。前会長の野末道彦先生(昭33)は顧問に就任された。スリムな体制を目指し、今回の会則改定で副会長を2名から1名とし、従来あった常任理事というポストを廃止することになった。総会運営の輪番制もやめて理事会が中心に運営することも決まった。

いただいたき、「肺がん診療における最近の話題」と「大学病院経営の法人化に向けて」について講演いただき、肺がんについては重粒子線治療などの最新の情報についてお話しされた。また独立行政法人化に伴い、大学病院が大きく機構を変わる、4人の副院長と3人の病院長補佐を置いて役割を明確にし、協力して運営を行うことにされたことや、従来の講座制にとらわれない診療科の再編成など大胆な改革が行われていることなどを解説された。法人化に向けて同窓生は詳細が分からず心配する声が多かったが、新しい病棟の増築計画や先端医療などで画期的な仕事が行なわれていることなど明るいお話にほっとしたところであった。

総会の後は記念写真を撮り、次いで恒例の懇親会で親睦を深めたが、藤澤病院長とのざっくばらんな意見交換などもあり大変有意義なひと時であった。また長泉町の文隆雄先生(昭46)と浜松市の山本俊樹先生(昭51)から新規開業の挨拶があり、締めくくりには岩間定夫先生(昭23)にご挨拶いただいたお開きとなった。会員の構成が変化を見せ

千葉県ろのはな会

平成16年度総会が、6月19日(土)午後2時30分より、京成ホテル・ミラマーレに於いて開催された。栗原伸夫(昭38)理事の司会により、初めに平成16年度物故会委員15名のご冥福を祈って黙祷を捧げた。続いて大浜会長が挨拶し、独立法人化により、特に医学部及び附属病院は新しい制度が発足した。大学病院への包括制度の導入、卒後臨床研修の必修化、医学教育改革の急速な進展などについて、恒常的な国の予算削減と、評価に対応しなければならぬため、医学研究院・医学部・附属病院が密に連携した組織的な対応が不可欠となっている。特に今まで十分でなかった教育・研究・診療面での地域学外協力が大きな柱となるため、同窓会員を始めとして多くの学外機関との連携を深めることが極めて重要である。同

窓会は単なる親睦団体ではなく、母校と密接な関係を保ち法人化に伴う様々な改革に側面からサポートすべく、大きくシステムを改革する必要がある。当会は特に地元でもあり、200人の会員を擁する最大の同窓会であることから、会員各位の意識改革によって大きく飛躍することを望むと述べた。

恒例により議長に会長を選出し議事に入り、15年度事業報告と16年度事業計画案について、遅刻された秋葉哲生(昭50)理事に代わって議長が説明し、15年度会計報告を阿部一憲(昭39)理事、監査報告を国井光智(昭21)監事が行った。(昭21)監事が行った。(昭21)監事が行った。(昭21)監事が行った。

役員交代の件について大藤正雄(昭29)副会長より説明があり、本部常任理事の香山真一先生の辞任に伴い、後任として山武町国民健康

保険直営診療所長の加部恒雄(昭44)先生を推薦すると共に当会の理事を兼任して頂く、また武者廣隆先生が青梅市の青梅今井病院の院長として転勤されたため、千葉労災病院副院長の岩間章介(昭50)先生に本部常任理事と当会の理事を兼任して頂くこと、そして昨年度総会に於いて懸案となっていた千葉市支部長の神田収茲先生の辞任に伴う後任として、大浜会長が兼任することが上程された。総会理事がすべて承認された後、加部、岩間両先生に自己紹介をして頂き総会は終了した。引き続き「ろのはな同窓会総会」が開催され、今年度は「千葉県ろのはな会」が担当したので大浜会長の総会司会により進行した。内容は本会報の別項を参照されたい。

2005年は卒後50年記念の年です。次の五五会を左記のように開催しますので予定下さい。 2005年6月4日(土)午後6時より、帝国ホテル2階菊の間(千代田区内幸町)。 後日詳細を郵送します。

1955年卒(昭和30年)

五五会の皆さんへ

当日卒後50年記念誌をお渡しする予定です。 記念誌原稿未提出の方は永野まで。

(永野俊雄 120-0034 足立区千住2-1-39-1 03-3138791-6604)

# 平成16年度 亥 鼻 祭

2004年度 千葉大学亥鼻祭実行委員会  
実行委員長 医学部4年 小西 孝宜

今年度の亥鼻祭実行委員会委員長を務めております医学部4年の小西孝宜と申します。今回は、ののはな同窓会報の紙面をお借りして、2004年度の亥鼻祭についてお知らせいたします。

今年度の亥鼻祭は11月2日(火)、3日(祝)に亥鼻キャンパスにて開催いたします。また、テーマを『COLORS』亥鼻を知ってください』としまして、

亥鼻にいる学生一人一人の個性や能力といったカラーを十分に発揮し、亥鼻キャンパスを盛り上げたいと考えております。実行委員も

医学部・看護学部あわせて100人を越えまして、一丸となって活動を続けております。

当日には、亥鼻キャンパスという医療系キャンパスの特色を十分にいかした企画を計画しております。今回、その中からいくつかの企画を紹介させていただきます。

今年度初めての試みとして、「ふくしまつり」という企画があります。亥

鼻地域の福祉作業所や養護学校の方々とともに、それぞれの団体に製作している作品のバザーや展示を行います。また、障害者・高齢者の疑似体験も計画しております。この企画を通して、学生が福祉について考えるとともに、それらに多くの方々に伝えていきたいと考えております。

また、健康をテーマとした企画として「亥鼻あるある大辞典!」というものを計画しております。健康レス  
トラン・  
健康診断・  
身近な病  
気の紹介  
などをし  
まして、  
普段学生  
が学んで  
いること  
を發揮す  
るとも  
に、地域  
の方々に  
健康につ  
いて考え  
ていただ



く機会となれば幸いです。その他にも、千葉大学の先生方を取材し発表する「研究する千葉大学」や「医療系シンポジウム」、「キャンパスツアー」など数々の企画を計画しております。亥鼻キャンパスの魅力と学生の活動をいかんなくアピールいたします。

前回のののはな同窓会報におきまして、同窓会の皆様に亥鼻祭へのご寄付のお願いをさせていただきました。たくさんのご支援、暖かいご声援をいただきました。皆様のご期待にこたえられるように精一杯頑張っていこうと考えております。誠にありがとうございます。

「家族の夕べ」などというものは、えてして陳腐なものになりがちだが、去る日曜日の、ゲッティンゲン室内楽協会の定期演奏会における「高野家の夕べ」は、まったく違う。ゲッティンゲンで育った高野姉妹、弥生・タカノ・ベックのピアノ、えりか・タカノ・フォー

た。ご多忙かと存じますが、ぜひ11月には亥鼻祭にいらしていただきたく、今の学生の活動をご覧になって頂きたいと思っております。よろしく願います。

## ゲッティンゲン日報2004年1月27日より

### 広大なスケールの感性 — 大学アウラにおけるタカノ・トリオによる室内楽 —

Michael Schaefer  
訳者 高野光司 (昭33)

「家族の夕べ」などというものは、えてして陳腐なものになりがちだが、去る日曜日の、ゲッティンゲン室内楽協会の定期演奏会における「高野家の夕べ」は、まったく違う。ゲッティンゲンで育った高野姉妹、弥生・タカノ・ベックのピアノ、えりか・タカノ・フォー

のヴァイオリンとその夫君、ベルリン音大教授ジュテファン・フォークのセロはハーモニーに満ちた共演であった。タカノ・トリオは素晴らしい優雅に、くつろいで、のびのびと、ノボムク・フムメルの変ホ長調作品12のピアノ三重奏曲で演奏会を開演した。ピアノの才の高かった、この作曲家の曲では、難曲を優雅にこなしたピアノが主役を占めたが、弦楽器奏者達も、とくに第二楽章では、叙情的な展開をみせた。終楽章は豪華なプレストでフィナーレを飾った。

ショスタコフウィッチの二短調セロソナタ作品40は、耳を楽しませる反面、非常に濃厚なラルゴーにおいて、ステファン・フォークは完璧なテクニク、高貴で繊細な音色、そして広大な構成力を明示した。あつからんとした明るさ、時に辛辣なウィットから、正反対の深い悲哀とメランコリーにいたる、スケールの大きい感性の構築を呈示することに成功した。

ドヴォルジャークの短調ピアノトリオ作品65は、このセロ・ソナタに良く調和したプログラムである。このピアノ・トリオにおいても、様々な感情の起伏、情熱のドラマチックな高揚そして溫和に歌うカンティレーネがあるからである。音楽への没入、燃えさかる火のような情熱をもってタカノ・トリオは演奏した。ヴァイオリンは、ゆったり

した楽章において、うっとりとして、とろけるような甘美な演奏であった。えりか・タカノ・フォークは、ほとんど暗譜で演奏していた。終楽章で、一瞬そのファンタジーで楽譜からそれかけた。だがこれは何ら問題ではない。重要なのは、彼女の音楽性とテクニクによって、いかに完璧にさつと音楽の流れにびったりと入っていたということだ。

熱中感激の拍手喝采。だがアンコールはなかった。これは聴衆の熱意の不足からではない。2時間余りの非常に豪華豊満な演奏によるものだ。

アウラとはゲッティンゲン大学百年祭にさいして、大英帝国とハノーヴァー選帝侯国の王を兼ねたウイヘルム4世の寄贈による大講堂である。187年の開堂式記念講演はアレキサンダー・フォン・フンボルトによる。接待役は数学者ガウスであった。爾來、何十、何百というノーベル賞受賞者を含む大学内外、国内外の大碩学が講演に立った。1987年大学二百五十年祭には千葉大学井出学長も、ドイツ語の祝辞をのべられた。1965年に市営ホールができ

るまでは、ゲッティンゲン市立オーケストラの定期演奏会もこの大学アウラであり、私も、1964年には、園田高弘氏のベートーヴェンの協奏曲第5番をここで聞いた。この頃、ゲッティンゲン室内学協会ができた。アウラは交響曲ではなく室内楽に、場所をゆずった。広さも程良く、音響効果の優れた、室内楽には打ってつけの講堂である。

ゲッティンゲン室内楽協会は、年に6回定期演奏会を開く。うち1回は、しかるべき国際コンクールの優勝者が招かれる。5回は、国際的に知られた、あるいは、そのレベルにある演奏家が招待される。ピアノ・ソロでは、たとえばデムス、国際コンクールで優勝した東京ワルテット、カラヤンとベルリン・フィルのひびの原因にもなったという、ザビーネ・マイヤーなど、など。ピアノ・ソロの高野弥生、フォークラー・クワルテットの演奏も過去の番組にある。

ここからは半ば私事になる。私の娘たちは、第50回ドイツ生理学会開会式、ヘンレ(係蹄の)・メダル授与式、私の教授25年兼現役記念音楽会などに音楽を受けもって、この講堂でた

翻訳者による注  
アウラとはゲッティンゲン大学百年祭にさいして、大英帝国とハノーヴァー選帝侯国の王を兼ねたウイヘルム4世の寄贈による大講堂である。187年の開堂式記念講演はアレキサンダー・フォン・フンボルトによる。接待役は数学者ガウスであった。爾來、何十、何百というノーベル賞受賞者を含む大学内外、国内外の大碩学が講演に立った。1987年大学二百五十年祭には千葉大学井出学長も、ドイツ語の祝辞をのべられた。1965年に市営ホールができ

した楽章において、うっとりとして、とろけるような甘美な演奏であった。えりか・タカノ・フォークは、ほとんど暗譜で演奏していた。終楽章で、一瞬そのファンタジーで楽譜からそれかけた。だがこれは何ら問題ではない。重要なのは、彼女の音楽性とテクニクによって、いかに完璧にさつと音楽の流れにびったりと入っていたということだ。

熱中感激の拍手喝采。だがアンコールはなかった。これは聴衆の熱意の不足からではない。2時間余りの非常に豪華豊満な演奏によるものだ。

アウラとはゲッティンゲン大学百年祭にさいして、大英帝国とハノーヴァー選帝侯国の王を兼ねたウイヘルム4世の寄贈による大講堂である。187年の開堂式記念講演はアレキサンダー・フォン・フンボルトによる。接待役は数学者ガウスであった。爾來、何十、何百というノーベル賞受賞者を含む大学内外、国内外の大碩学が講演に立った。1987年大学二百五十年祭には千葉大学井出学長も、ドイツ語の祝辞をのべられた。1965年に市営ホールができ

びたび演奏した。  
娘たちがゲッティンゲンを離れて久しく、町の人から、もう大分忘れられて、聴衆が集まるかと危惧さえたが、当日売りの入場券も売り切れ、来場の全ての知人に満足していただいた。

郵便局に行ったら、見知らぬ人からも「昨夜の音楽会は、ほんとうに素晴らしかった」と声をかけられた。蛇足：この批評家は、なかなか厳しい批評で知られている。

### 千葉大学柏の葉診療所紹介

診療所の理念：

### 自然と調和した医療を実践します

所長 喜 多 敏 明

緑の自然豊かな千葉大学柏の葉キャンパスの中に、東洋医学を中心とした診療を実践する場ができました。当キャンパスは環境と健康をテーマに学際的な教育・研究を推進する千葉大学の拠点（環境健康フィールド科学センター）であり、その成果を社会に還元し、皆

様が健康に生きることにご貢献していくことが当診療所の使命であります。職員一同、自然と調和した医療の実践に邁進いたす所存でございます。

①一人ひとりの体質に合わせ、自然治癒力を活性化します  
②ストレスによる

診療日時：月～水、  
金曜日の9時～12時（完全予約制）  
休診日：木・土・日・祝日  
電話番号  
（代表）：04-7134-8471

保険診療、生薬の煎じ薬対応  
駐車場完備



### の は な 同 窓 会 臨 時 常 任 理 事 会 議 事 要 旨

日時 平成16年6月2日  
(水) 午後5時～7時  
場所 市川・サンシティ (山崎製パン厚生年金基金会館5階)  
出席者 秋葉哲生、大藤正雄、大浜博利、沖真澄、小幡裕、加部恒雄、木内政寛、栗原伸夫、佐藤甫夫、佐藤通、白澤浩、鈴木信夫、瀧口正樹、田中光、富田裕、道永麻里、渡辺武

開会に先立ち、渡辺会長より御挨拶があった。

議案  
一、会則改定について  
渡辺会長より、資料(改定案4)に基づき発議。原案通り承認され、総会の承認を求めることになった。

報告事項  
一、総会次第について  
大浜理事より、平成16年度総会次第について、資料に基づき説明がなされた。

### 第1回総務会議事録

日時 平成16年7月28日  
(水) 午後6時～8時30分  
場所 JR千葉駅ビル・ペリエホール  
出席者 大藤正雄、木内政寛、税所宏光、佐藤甫夫、白澤浩、鈴木信夫、渡辺武

当日の提案事項や意見等をまとめておくこととした。

2 評議員、理事、常任理事の人事と各会の運営について  
来年度の総会までに理事会を開催するよう、佐藤参与と税所理事により検討していただいた。次回総務会において協議する。常任理事会の運営・会務の役割についても併せて検討してもらう。

3 の は な 同 窓 会 報 の 発 行 について  
同窓会報の編集方針や編集委員の選任法についていろいろ意見が出されており、8月3日臨時に開催する編集委員会での討議内容を報告してもらう。その結果、同窓会報の在り方について検討することとした。

4 同 窓 会 名 簿 の 作 成 について  
瀧口理事が担当責任者となって、従来の名簿のスタイルを踏襲して作成することと進められているが、会則の改定に伴って大学所属職員や学生会員の掲載をどのようにするかなどについて、今後の総務会で検討することになった。

5 首 都 圏 の は な 会 について  
単なる親睦会ではないことを確認し、今後の活動方針について具体的に提案してもらうこととした。なお、9月18日に開かれる平成16年度首都圏の は な 会 に対しては、経済面を含めて支援することをあらためて確認した。

6 「 大 学 医 学 部 附 属 病 院 案 内 冊 子 の 配 布 」 について  
附属病院長より同窓会全員にこの冊子を配布したいが、かなりの経費がかかるので、同窓会に補助してもらいたいとの渡辺武同窓会長宛依頼があった。同窓会としては全員に送付することはせず、冊子について同窓会報の記事とし、さらに各支部に3部を送り、支部ごとにこの冊子を会員に配布するかどうか判断することになった。

7 現在の将来検討委員会(第一部、第二部)については見直しをする。また、新しい委員会の設立が必要かどうか今回の総務会で検討する。

8 東北支部設立については、東北支部設立については、その地区での要望がどの程度にあるのか、また中核となるべき責任者が居るのかなど、あらかじめ調査する

### 千葉大学のはな同窓会 『電子カルテ講座』に参画して

(講演者 伊藤 賢 司(東北大・昭47)

(南光台伊藤クリニック)

7月10日(土)午後4時より虎ノ門パストラル(東京)にて、千葉大学のはな同窓会主催の電子カルテ講座が開催されたので報告いたします。

司会は前半を鈴木信夫教授(千葉大学)が、後半を済陽高穂先生(都立大塚病院副院長)が担当された。最初は大学病院の立場から『病院経営とIT化の現状と将来』という演題で、千葉大学企画情報部の高林克日己教授が講演された。先進医療、先端医療、医学教育を行いながら、国民の負担を最小限に保つような経営を大学病院でいかに成

9 これまでの事業の見直しと新事業の展開については、あらかじめ次の総務会で協議する。

10 第2回総務会を8月19日午後6時よりJR千葉駅ビル・ペリエホールで開催することを決定した。 議事録担当：大藤正雄 鈴木信夫

### 『情報開示と医院経営に役立つ電子カルテ(ダイナミクス)』という演題で伊藤が講演した。最近の開業医にとって一番の痛手は、薬の長期投与が認められたことである。従来2週間毎来院の患者さんが、3〜4週間分の薬を希望するようになり、月当たりの受診者数抑制を引き起こしている。これに対処するには、電子カルテにより情報開示をすすめる、血圧経過・薬剤情報・血液検査成績などを印刷し患者さんに渡し、関心を高めて受診回数減少の歯止めとすることである。またダイナミクスのようにリーズナブルな価格の電子カルテは経営の一助になること、他社のものと異なり、自院のデータは自院に残ること、診療しながら会計ができ開業医向けであることなどについて実際にダイナの画面を動かしながら説明した。

し遂げるかを話された。千葉大学の外来部門における電子カルテの入力率は内科や外科で80%前後と良いが、特殊科では一般に40%以下であった。カルテを電子化することにより、病床利用率のアップをはかる一方、クリニックパスを導入し入院日数を短縮、医薬品管理などへの応用などで経営効率の分析に役立てている。千葉大の電子カルテは住建(スミケン)が担当し、給食部門までカバーする大掛かりのシステムで金額も相当のものであるとのことであった。

二番目に診療所の立場から『情報開示と医院経営に役立つ電子カルテ(ダイナミクス)』という演題で伊藤が講演した。最近の開業医にとって一番の痛手は、薬の長期投与が認められたことである。従来2週間毎来院の患者さんが、3〜4週間分の薬を希望するようになり、月当たりの受診者数抑制を引き起こしている。これに対処するには、電子カルテにより情報開示をすすめる、血圧経過・薬剤情報・血液検査成績などを印刷し患者さんに渡し、関心を高めて受診回数減少の歯止めとすることである。またダイナミクスのようにリーズナブルな価格の電子カルテは経営の一助になること、他社のものと異なり、自院のデータは自院に残ること、診療しながら会計ができ開業医向けであることなどについて実際にダイナの画面を動かしながら説明した。

三番目に市中病院の立場から『NTT関東病院における電子カルテシステムの現状』という演題でNTT東日本関東病院消化器内科部長の桜井幸弘先生が講演された。約30億円をかけIBMに作らせたというだけあって、消化器の画像の取り込み、手術標本写真の記

載、指紋でカルテが開けるセキュリティシステムなど、さすがNTTといえるだけの高度で多機能な電子カルテであった。 ここで、ダイナミクスの開発者であり内科の開業医でもある吉原正彦先生に特別発言の機会が与えられた。先生は事務員でないとい

### 電子カルテ講座感想アンケート

●既存の環境(レセコン、内視鏡ファイリング、レントゲン画像、検査データ等)との総合を考えると、電子カルテの選択も限定されたものにならないを得ないのが現状です。段階的に導入していこうと思います。

●NTT東日本関東病院桜井先生の講演は、優れたシステムの紹介と本音を交えたお話が大変有益だった。 ●電子カルテの必要性を再認識した。利便性、簡便性が実感できた。食わず嫌いだっただのを反省。 ●本日の講演は、題材も大変興味深いものであり、また、内容も大学病院、一般病院、診療所のそれぞれの現状がわかり、勉強になった。講義をなさった先生方も聞きやすいように工夫し

て下さっており、大変内容が濃かったと思う。 ●千葉大学附属病院の電子カルテの状況がよくわかりました。ダイナミクスの内容もある程度わかりました。NTT東日本関東病院の指紋認証によるプライバシーのセキュリティシステムや進んだ100%の電子カルテについては素晴らしいと感じた。

●大学での先進事例から、診療所レベルのダイナミクスまで幅広い内容の話を聞けました。 ●今日は、医療の現状を全く違う角度から知ることができ、大変有意義だった。 まず、高林先生のお話は、私も2年後には実際に病棟実習で行くであろう千葉大の臨床の現状を知ることが出来たと思う。医者は、患者の病気だけを治すことに集中すればよい時代はすでに昔のことで、大学病院も独立行政法人になったことで、医師一人一人も経営に

### 電子カルテ講座感想アンケート

●電子カルテは様々な機能とデータのやり取りを自由にできる、というイメージを持っていた。しかし、予算、必要な機能、利用するシステムなどに関して、施設間で大きな差異があることを知り、データの共有化に関してはさらに進歩が必要であると感じた。今回の講座では、そのようは現状

や、成功している施設の様子などを知ることができ、大変有意義だったと思う。 ●今日は、医療の現状を全く違う角度から知ることができ、大変有意義だった。 まず、高林先生のお話は、私も2年後には実際に病棟実習で行くであろう千葉大の臨床の現状を知ることが出来たと思う。医者は、患者の病気だけを治すことに集中すればよい時代はすでに昔のことで、大学病院も独立行政法人になったことで、医師一人一人も経営に



過去のカルテを携帯電話で見ることが出来る。こんなサービスを千葉県内などの医療機関とNTTドコモが協力して、8月末にも開始する。普及しつつある電子カルテの活用方法として注目されそう。

：「旅行や出張先でパソコンがなくても見ることが出来る。処方された薬や検査結果、医師の所見がわかれば、初めての病院でも適切な治療を受けられる」：厚生労働省の調査では、2002年10月時点で全国9187カ所の病院のうち、約11%が電子カルテを導入済みか予定があるという。400床以上の病院では約30%に達している。

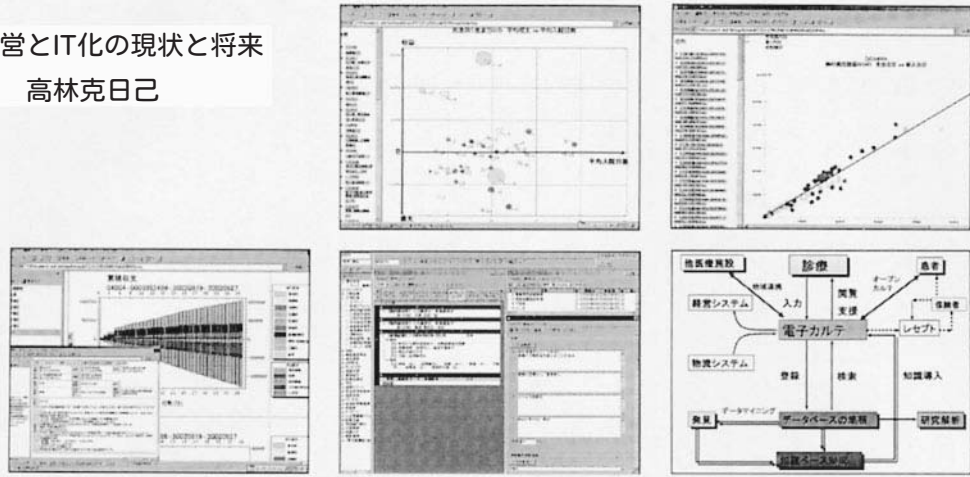
●伊藤先生のお話では、個人でも電子カルテを導入することができ、その有用性もあるということが大事だとわかった。この話は、医学生にとっても非常に有用であると感じ、講義として取り入れてもよいと思った。

商業紙情報  
7/16朝日夕刊(1)より  
旅先で急病  
カルテ確認

電子カルテ講座講演スライドより

— 講演者が使用したスライド原稿を各々の講演につき5枚掲載 —

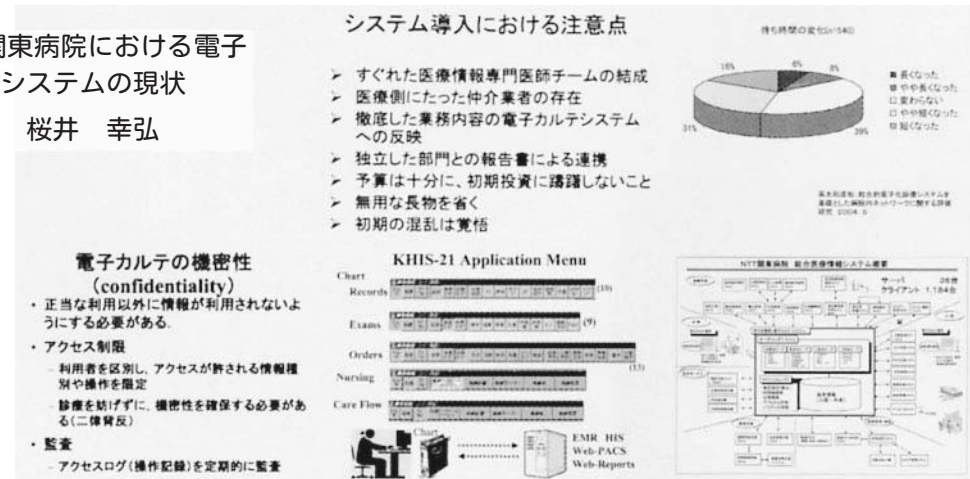
病院経営とIT化の現状と将来  
講演者 高林克日己



情報開示と医院経営に役立つ  
電子カルテ  
講演者 伊藤 賢司



NTT 関東病院における電子  
カルテシステムの現状  
講演者 桜井 幸弘



■ 病院紹介 **横浜労災病院**  
副院長・内科部長 西川哲男 (昭47)

新設された当病院は1991年6月より、脳・心疾患を中心に高度先端医療と24時間救急をモットーに横浜市北東部中核施設として診療開始した。院長は初代が桑原武夫先生(横浜市大・脳外科教授)、現在は阿部薫先生(癌センター中央病院・総長)で、親元は厚生労働省の外郭団体である労働福祉事業団(本年4月より独立行政法人・労働者健康福祉機構)で、全国の労災病院の中で最も新しい施設で、ここ数年は経営努力の結果単年度毎に黒字経営を行っている。650床の急性期医療を目指し平均在院日数は13日前後で近隣並びに全国の大学病院からの紹介患者も多数来院している。全国労災病院の基本理念として勤労者並びにその御家族の方の健康を守る義務があり、予防医学的指導(例えば生活習慣病等)を目指し、医師会産業界医師会・各企業医務室あるいは産保センター等と協力的体制も強化中である。病院の理念は「みんなでやさしい明るい医療」で、病院医療評価機構でも最新

のヴァージョンで高得点を獲得している。日経病院ランキングの医療の質を重視している病院の全国5位に評価されている。オープン当時から研修医のスーパーローテート方式で2年間の研修指導を行ってきた。昨年マツチングが行われた際は全国から約170名医学学生が受験し、晴れてその内15名がこの5月より研修を開始している。千葉大学出身の平成16年卒の千田明美・伊藤公乃先生2名がマツチング後発の当院研修医となって元気に研修を行っている。本年も20名程の受験があり多くの千葉大・医学学生が応募した。当院医師数は研修医を含め160名前後で、その出身大学は30以上の医学部卒業経歴であり、グローバル化が進んでいる。尚、主要科である、外科(元2外所属)・内科(元2内所属)・泌尿器科の部長は千葉大学出身でその医局員も大半が千葉大医局に所属している。外科は、大島郁也部長(昭57)、内科は西川哲男、泌尿器科は山口邦雄部長(昭53)でさらに、消化器病センター

は尾崎正彦センター長(昭52)(本年6月より副院長)、中央検査科は平澤晃部長(昭60)(血液内科兼務)、勤労者予防診療部は伊藤浩子(昭60)副部長(内分・代謝内科兼務)、総合診療部は北靖彦副部長(昭62)(リウマチ・膠原病内科兼務)、内分・代謝内科は齋藤淳副部長(愛媛大昭62)、救急部では木下弘壽部長(昭59)で全て千葉大学より赴任。阿部薫院長の下、病院幹部としては、西川、尾崎副院長2名、更には医局長として、山口泌尿器科部長が積極的に病院運営を行っている。診療内容を紹介しますと、内科は、内分・代謝内科、腎臓(透析部)内科、血液内科、リウマチ膠原病内科、腫瘍内科、総合診療部の各専門部門より構成されている。他に、独立して、消化器科・呼吸器科・循環器科・神経内科・心療内科が個別にあり部長は千葉大以外からの出身である。外科は、伝統の第2

外科消化器を受け継ぎ食道癌・大腸癌、肝・胆・膵を中心に診療している。泌尿器科は腎尿路結石、泌尿器系腫瘍(副腎も含む)、副甲状腺を得意としており、外科とともに近隣の医療施設に内視鏡手術の指導を行っている。他に多くの千葉大出身者が活躍中である。最後に、場所は新横浜駅から徒歩7分で、ライオン博物館とワールドカップが開催された横浜総合競技場の間に位置しております。同門の皆様には是非お立ちよりください。  
\* \* \*  
リウマチ・膠原病内科  
高橋成和(平7)  
内科  
原雅一(独協医大平11)・

古田俊介(平12)・田中宏明(平13)  
外科  
吉村清司(昭63)・篠藤浩一(平4)・田崎健太郎(弘前大平5)・軽部友明(浜松医大平9)・成本壮一(平13)・仁科洋人(平14)  
泌尿器科  
永田真樹(平3)・小瀧隆英(旭川医大平7)・神谷直人(杏林大平7)・上島修一(平11)

医学部学生編集委員会企画インタビュー  
人間の医学への道(人間と歴史社)  
著者 永井友二郎先生に伺う  
「ことば」を大切にしたい医療者を目指して

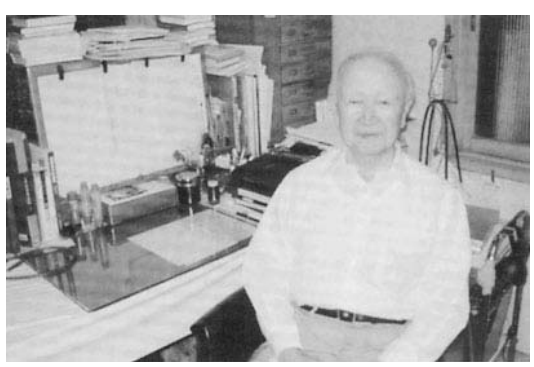
★東京都三鷹・大先輩との対面

猛暑の続く平成16年8月9日、学生委員名で永井病院の待合室にてお話を伺った。永井病院は戦争直後から住んでおられた先生の自宅を改装したもので、外見から病院特有の堅苦しさといったものが全く感じられない。待合室、診察室も居間のような雰囲気です。しかし、要所に手すりなどがついており、バリフリーの意識の高さも伺えた。大先輩を前に緊張する我々を永井夫妻、永井医

院は暖かく迎えてくれたのだ。★人間は死ぬ瞬間は苦しくない、というリアルな体験  
学生：今回先生の出版された「人間の医学への道」は先生の半生が綴られております。まず医師を志した理由をお聞かせ下さい。  
永井：私は親戚縁者に医者はいません。高校生当時、進路を考える上でやはり戦争の影響が大きかった。争いを好まない性格だったため、同じ前線に出るのなら一兵卒で敵と刺し違えるよりも、怪我人の治療中に

やられた方がいいと考え、医師を志しました。元々好奇心旺盛な性格で、学生時代は当時の教授の方々にかわいがられることもあった(笑)★  
学生：先生は卒業すぐに軍医として前線に赴き、本当に多くの修羅場をくぐることになりましたが、そこで感じたもの、得たものは何だとお考えですか？  
永井：戦争ですから当然私の乗艦も何度も被弾し、沈没も経験しました。私自身が負傷した時、怪我で意識が遠のくのを感じました。もう駄目かと思った時、不思議と痛みはなく苦しくなく意識を失いました。幸い助かりましたが、そのときの経験から「人間は死ぬ瞬間は、苦しくない」という考えが生まれました。肉体が機能停止するより大分早く意識は消滅するもので、人の体はよくできていますね。その事を身をもって経験しました。その後臨床医として多くの患者の死を看取るうちに、この考えは確信へと変わりました。実際にこのことを

れる患者、家族の人は多いんです。★「患者の話を聞きすぎる」と言われた時代  
学生：終戦後、大学に戻られてから開業へと向かう心境の変化、分岐点となることを教えてください。  
永井：当時第2内科の堂野前教授から「よき総合的な内科医であれ」と熱心な指導を受けました。私も内科医は病人の人間を理解し人間全体を診るべき、と考えて臨床にあたりました。しかし、それは当時の一般的な考えとは言えません。「永井先生は患者の話を聞きすぎる」と先輩に苦言を呈されたことがありました。それほど医学は学問的・硬直的だったのです。当時、私は憤りをおぼえま



した。また、大学の医師・病院勤務・開業医の順に医者「格」が厳然と存在し、開業医は一段下にみられる時代でした。その考え方も、馴染ませませんでした。私は自分流の医療を行おうと開業したんです。

**学生**：従来の体制に対する憤りが、その後どういう形で「実地医家のための会」設立に向かったのですか？

**永井**：初めの頃は開業医として手探りの状態でした。この当時、開業医同士のつながりというものは希薄で、どんな名医もその技術・知識・ノウハウは一代限りのものでした。そういう情報は共有されてい

ませんでした。開業医が行う医療というのは大学病院のそれとは性質が違い、医療全体から見ればプライマリ・ケアの場として必要不可欠なものです。それが無いがしろにされていた当時の現状を改善するため、開業医同士の横のつながりを作ろうと、他の開業医の先生方への呼びかけを開始しました。そして、雑誌社や大学教授など、多方面の理解と協力が得られ、昭和38年2月「実地医家のための会」が誕生しました。

**★学会設立、そして患者・医師関係への警鐘**

その後、永井先生の精力的な活動により、昭和53年日本で初の開業医が中心になった総合臨床医学の学会「日本プライマリ・ケア学会」が設立された。開業医の生涯学習の機会を提供し、開業医が新しい知見を得、医療の質を保持する役目を負う。現在は4,000人以上の会員があり、開業医だけではなく、大学の総合診療科の先生方が発表する場としても大切なポジションを占めている。

また、先生は旧厚生省の医事紛争研究班に開業医代表として参加し、「インフォード・コンセンスト」の考え方について理解を深め、その普及をはじめた。「患者の権利」等、生命倫理の考えがほとんど存在しなかった当時の医療現場において、こうした活動は初めてのことであったという。

**★コミュニケーションでできる医師へ**

**学生**：最後に、先生から今後の医療を担う後輩達へのメッセージをお願いします。

**永井**：医師として学ぶべき技術・知識は数々ありますが、究極的には、患者さん、家族とのコミュニケーションに集束します。そしてコミュニケーションの方法として、「ことば」は必要不可欠です。開業医であるうと、大学病院の医師であるうと、すべての医師の基本精神として「ことば」を大切にしたい、「ことば」としてこそ医療の基本であることを心にとめて欲しいと思います。

**学生**：先生、本日はありがとうございました。ごさいました。

**△永井友二郎先生・経歴▽**

大正7年生まれ。旧制武蔵中学・高校を経て、昭和13年千葉医科大学入学。在学中より海軍軍医を志し、3年次に海軍委託学生の試験に合格。昭和17年1月、千葉医科大学を太平洋戦争の影響で3ヶ月繰り上げて卒業すると同時に海軍軍医中尉に任官、戦地へ。ミッドウェー海戦、ガダルカナル島作戦等、数々の激戦をくぐり抜ける。終戦後は千葉大学医学部第2内科に入局し、医学博士号を取得。

成田赤十字病院内科医長を経て、昭和32年東京都三鷹に医院を開業。「全人的、総合的医療」を提唱し、「実地医家のための会」「日本プライマリ・ケア学会」の設立に貢献。以後、医院での診療を続ける傍ら、学

生の医学教育、医師の生涯教育、医事法とインフォード・コンセンスト、ターミナル・ケア等々、様々な問題に取り組み成果をあげる。医療界・医学界内外の人材と幅広い交流を持つ。医学書、一般書の著書・論文多数。第9回のはな同窓会賞受賞。86歳。

**★取材を終えて**

医師と患者の関係が大きく見直されつつある今日の医療現場であるが、千葉大学の先輩にこのように時代を先取りし、創造してきた方がいらしたことに驚くと同時に後輩として誇りに思った。医師と患者のコミュニケーションの上に医療は成り立つということを再認識した。先生の柔和な物言い、物腰の中に確かな情熱を感じた。(5年吉村 4年荒木)

**永井友二郎先生より**

3日前、千葉大学医学部の学生、5年生と4年生が来宅、今度出版した「人間の医学への道」の著者としてのわたしをのびのはな同窓会報に紹介するため、取材をして行きました。なかなか礼儀正しい好青年でした。

話はこれらの自己紹介から始まって、後はこれらの質問に答えるかたちでした

が、ついつい、話はずんで、気がついたら3時間、ずっと話せばなしでした。それだけ、彼らがわたくしのあしどりを、生き方に興味をもったということです。私はいまの医学生がこんなことを考えているか、まったく知りませんでしたので、かれらの私への質問ぶり、対応ぶりが大変新鮮に、興味深く思えました。

大学で教育を受けているだけのかれらですが、開業医の役割、プライマリ・ケア

**☆東医体で水泳部連覇☆**

東日本医科学生総合体育大会「水泳」は、8月3日・4日札幌市平岸プールで、35大学の学生達が競う中、昨年に続き本年も千葉大学が優勝した。

優勝の原動力となった選手は、(数字は在学年) 豊住武司 4 バタフライ

佐藤貴史 5 平泳ぎ 野村亮太 5 自由形

池田克人 6 自由形

で、中でも豊住君は、バタフライ100米、200米ともに一位を獲得し、優勝に貢献した。女子は、優勝は逸したが準優勝した。

活躍した選手は、 洪井さやか 2 バタフライ 友成暁子 4 平泳ぎ

アについてもある程度理解をもっているようにみえました。かれらは医者のおせがれではありません。暑い毎日ですが、さわやかな体験をしましたので、ちょっと。(本年度より編集委員会に学生編集委員が加わり、新たな企画をしました。今後、病院めぐりなどの企画も予定されており、学生編集委員より訪問希望がありましたらよろしくご対処ください。)

山鋪陽子 6 自由形

尚、優勝祝賀会は、OB会が中心となり、医学部学生92名、看護学部学生48名の水泳部員が参加し、10月



23日(土)午後5時30分より、千葉県庁隣「菜の花プラザ」で開催される。  
(青木 謹・昭36)

**外務大臣から**

**表彰状を頂いて**

先日、日米交流150周年を記念して外務大臣から表彰状をいただきました。理由は「外科医師として活躍し、米国内における日本人医師や日本人社会に対する評価の向上に大きく貢献し、又姉妹都市・州、草の根レベルの日米交流に功績を残している」とあります。私は今後

も努力を続けていきますので今後も皆様の御支援をお願いいたします。(中澤弘・昭31)



阿川直之公使と共に 家内と娘です。

千葉医学雑誌80巻 3号目次

講座  
 続るのはな昔がたり 石出猛史

症例  
 Peutz-Jeghers 症候群に合併した小腸の重複癌を伴う直腸癌の1手術例  
 高石 聡 山本義一 所 義治 舟波 裕 当間智子  
 笹川和志 大谷俊介 島田忠長 関 幸雄 落合武徳

話題  
 学校保健法施行規則改正に伴う結核健診 杉田克生

学会  
 第1076回千葉医学会例会・平成15年度千葉大学大学院医学研究  
 院胸部外科学・基礎病理学例会  
 第1078回千葉医学会例会・第21回神経内科教室例会  
 第1082回千葉医学会例会・千葉大学大学院医学研究院腫瘍内科  
 学例会  
 第1086回千葉医学会例会・第6回環境生命医学研究会

編集後記

千葉医学雑誌80巻 4号目次

千葉医学会特別講演  
 細胞周期と放射線 その1 寺島東洋三

総説  
 高気圧酸素療法の実例 一どの病気に有効か? 治療法  
 の実際は? 千葉県の実状—  
 中田瑛浩 齊藤順之 千見寺勝 香田真一 樋口道雄  
 川田欽也 石田 修 高橋佐和士 藤原敬悟

らいつらい  
 The Bethesda System for Reporting Cervical Cytology,  
 2nd ed. 石倉 浩

研究報告書  
 平成15年度猪之鼻契学会研究補助金による研究報告書  
 学 会  
 第1068回千葉医学会例会・第28回千葉大学放射線医学  
 教室同門会例会  
 第1081回千葉医学会例会・整形外科例会  
 第3回千葉肝胆膵外科フォーラム

編集後記  
 第80回千葉医学会学術大会・第41回日医生涯教育講座

静岡県のはな会



神奈川県のはな会



栃木県のはな会



編集後記

8月3日、渡辺武会長、富田裕副会長が出席され編集会議が開催されました。その時の話題になった事を含めて、同窓会活動の活性化、同窓会報の充実を目指して、会員の皆様の御協力をお願いしたいと思います。先ずは、情報提供のお願いです。現在、当会報の記事は、大学内及び千葉周辺地域に片寄っている傾向にあります。会員が多い地域ですか

- 長谷川英夫 (昭10)
- 星野重雄 (昭11)
- 木津順夫 (昭14)
- 幸島秀夫 (昭17)
- 丸山泰弘 (日大専17)
- 林和夫 (昭18)
- 早川洋一 (昭19)
- 梅沢和夫 (慈恵20)
- 小杉精作 (昭21)
- 吉田亮 (昭23)
- 岡田忠雄 (九州医専23)
- 小高進 (昭24)
- 大御恒久 (昭24)
- 小澤亨 (昭24)
- 杉山甲子造 (昭24)
- 大久保雄平 (昭25)
- 佐瀬富士夫 (昭25)
- 鈴木次郎 (昭25)
- 平野光治 (昭25)
- 高島恒一郎 (昭26)
- 赤井敏彦 (昭28)
- 鈴木達彦 (昭33)
- 赤木弘行 (昭34)
- 坪内弘行 (昭43)

おくやみ

ら致し方ない事ではあります。支部等からのニュースが少な過ぎる所に問題があります。支部からのニュースは積極的に受け入れる態勢にあり、いつでも御投稿を待っております。特に、人の動き(昇任・転任・退任・受賞)について、編集部宛お知らせ戴ければ幸いです。新聞記事等のコピーを添えて下されば更に有難い事です。勿論、御本人からの申告も大歓迎です。支部からのニュースが少ないのは、連絡網が構築されていないからに他なりません。その為に、各支部から編集委員或いは通信員を選んで戴くのが良いかと思えます。支部のない所では、自薦であっても構わないと思えます。

本号の西湘のはな会病院紹介(横浜労災病院)は「かながわのはな」に掲載されたものをお願いして、転載させて頂きました。群馬・栃木・埼玉・静岡・千葉・神奈川の各支部では活発に活動し会報を発行しておりますが、各支部会報への投稿と同時に、本部へも同じものをお送り下さると有難い事です。七千余名の会員の動静を少しでも多く掲載したいのが我々編集委員の願いです。従いまして、支部総会、同級会の記事を送って下さる時、出席委員の名前を、フルネームで、必要に応じて卒業年も加えて戴ければ幸いです。個人名が出る事はその人が元気に活躍されている事でもあります。極端な事を申し上げて、会の模様を書いてくれる人がいない場合、写真と開催日時、開催場所、出席者氏名をお送り下さるのも良いのです。又、学会等、何の会合であっても、会員が珍しい組合せで集まった時、写真と記事を送って下さるのも有難い事です。例えば本紙1月号に、昨年の関東甲信越医師会連合会・共同利用施設分科会に出席していた7人を写真入りで学会余聞として紹介致しました。今年横浜で行われた会では、神奈川県衛生部長の大崎逸朗先生(昭41)が来賓として、又、板橋区医師会副会長篠遠彰先生(昭50)がシンポジストとして出席されておりました。お二人とも、その役職に就任した時に紹介出来ませんでした。何等かの記事として投稿して下さいれば、紹介時期を逸しても、活躍されている事が紹介出来るわけです。のはな同窓会報充実の為に、会員の皆様の情報提供をお願い申し上げます。(青木謙・昭36)